

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年6月30日
【事業年度】	第69期（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）
【会社名】	オイレス工業株式会社
【英訳名】	OILES CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 飯田 昌弥
【本店の所在の場所】	東京都港区港南一丁目2番70号
【電話番号】	(03) 5781 - 0780 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 上席執行役員 企画管理本部長 宮崎 聡
【最寄りの連絡場所】	神奈川県藤沢市桐原町8番地
【電話番号】	(0466) 44 - 4878 (代表)
【事務連絡者氏名】	企画管理本部 経理部長 村井 武
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第65期	第66期	第67期	第68期	第69期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (百万円)	60,083	56,893	59,050	61,360	60,165
経常利益 (百万円)	5,054	4,601	5,283	5,247	5,072
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	4,927	1,466	3,583	3,738	3,432
包括利益 (百万円)	2,148	1,043	5,113	2,487	2,439
純資産額 (百万円)	57,748	56,299	58,839	59,806	60,642
総資産額 (百万円)	70,247	68,848	72,607	79,315	79,887
1株当たり純資産額 (円)	1,773.66	1,747.67	1,851.17	1,878.17	1,901.14
1株当たり当期純利益金額 (円)	150.54	46.37	114.37	119.49	109.62
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	80.1	79.6	79.7	74.1	74.5
自己資本利益率 (%)	8.6	2.6	6.4	6.4	5.8
株価収益率 (倍)	11.18	44.25	19.80	14.78	12.48
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	8,160	6,440	6,126	3,861	8,292
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,308	2,445	3,802	5,295	3,549
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	4,968	2,694	2,758	4,332	1,744
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	15,369	16,419	16,208	18,860	21,832
従業員数 (人)	1,993	2,089	2,051	2,092	2,085
(外、平均臨時雇用者数)	(533)	(477)	(522)	(541)	(506)

(注) 1. 売上高は消費税等抜きで表示しております。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第68期の期首から適用しており、第65期から第67期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第65期	第66期	第67期	第68期	第69期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (百万円)	36,096	34,179	35,473	37,575	37,565
経常利益 (百万円)	2,408	1,761	3,756	3,095	3,391
当期純利益又は当期純損失 () (百万円)	3,233	270	2,873	2,461	2,435
資本金 (百万円)	8,585	8,585	8,585	8,585	8,585
発行済株式総数 (千株)	36,300	34,300	34,300	34,300	34,300
純資産額 (百万円)	43,390	40,648	42,377	42,859	43,127
総資産額 (百万円)	52,307	50,012	53,063	59,902	60,415
1株当たり純資産額 (円)	1,366.88	1,296.96	1,356.47	1,368.97	1,377.54
1株当たり配当額 (円)	50	50	50	50	50
(うち1株当たり中間配当額)	(25)	(25)	(25)	(25)	(25)
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額 () (円)	98.80	8.57	91.69	78.69	77.80
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	83.0	81.3	79.9	71.5	71.4
自己資本利益率 (%)	7.2	-	6.9	5.8	5.7
株価収益率 (倍)	17.03	-	24.70	22.44	17.58
配当性向 (%)	50.6	-	54.5	63.5	64.3
従業員数 (人)	771	779	778	794	794
(外、平均臨時雇用者数)	(330)	(318)	(297)	(312)	(311)
株主総利回り (%)	73.9	91.8	103.0	83.9	69.0
(比較指標：配当込みTOPIX (東証株価指数)) (%)	(89.2)	(102.3)	(118.5)	(112.5)	(101.8)
最高株価 (円)	2,386	2,197	2,413	2,700	1,924
最低株価 (円)	1,588	1,520	1,872	1,588	1,108

(注) 1. 売上高は消費税等抜きで表示しております。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第66期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、当期純損失であるため記載しておりません。

4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第68期の期首から適用しており、第65期から第67期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

5. 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2【沿革】

年月	事項
1939年4月	東京市大森区新井宿（現 東京都大田区中央）において川崎宗造が個人経営による「日本オイルレスベアリング研究所」を創設し、オイルレスベアリングの製造販売を開始
1952年3月	「株式会社日本オイルレスベアリング研究所」を設立（資本金100万円）
1958年12月	「日本オイルス工業株式会社」に商号変更
1959年2月	東和電気株式会社（現：ユニプラ㈱）の株式取得
1962年4月	神奈川県大和市に大和工場を新設
9月	橋梁用支承要部「オイルレスベアリングプレート」の製造販売を開始
1966年2月	「オイルス工業株式会社」に商号変更
1967年12月	蒲田工場（1954年2月新設）を閉鎖し、神奈川県藤沢市に本社・工場を新設
1970年10月	大阪工場（1961年4月新設）を閉鎖し、滋賀県栗東町（現：栗東市）に滋賀工場を新設
1971年2月	ルービィ工業株式会社（現：連結子会社）を共同設立
10月	排煙・換気用窓開閉装置「ウィンドウ オペレーター」の販売開始
1976年11月	Oiles America Corporation（2011年1月合併、消滅）をアメリカ合衆国に設立
1978年5月	ユニプラ株式会社（現：連結子会社）の株式を取得
5月	オーケー工業株式会社（現：連結子会社）を共同設立
1979年4月	オイルス建材株式会社（現：オイルスECO㈱）を設立（設立時社名：オペレーターサービス㈱）
1982年5月	大平産業株式会社（現：オイルス西日本販売㈱）の株式を取得
1983年9月	大分県中津市に大分工場を新設
1987年2月	免震装置「オイルスLRB」の製造販売を開始。また、当装置を使用した日本で初の免震構造ビルを当社藤沢事業場に建設
1988年3月	自潤元件工業股份有限公司を中華民国（台湾）に合併で設立
6月	オペレーター鋼機株式会社（現：オイルスECO㈱）の株式を取得
12月	Oiles Tribomet Gleitelemente GmbH（現：Oiles Deutschland GmbH）の持分を取得
1989年12月	株式を店頭登録銘柄として（社）日本証券業協会に登録
1993年4月	栃木県足利市に足利工場を新設
1994年3月	株式を東京証券取引所市場第二部に上場
1995年3月	株式会社免震エンジニアリング（現：連結子会社）を設立
1996年12月	株式会社リコーキハラ（現：連結子会社）の株式取得
1997年9月	株式を東京証券取引所市場第一部に指定
1998年2月	ISO9002品質システム認証取得（現在のISO9001）
3月	栃木県足利市に免震・制震技術研究センターを新設
4月	株式会社キソー（現：オイルス東日本販売㈱）の株式取得
10月	上海自潤軸承有限公司（現：連結子会社）を中華人民共和国に合併で設立
11月	Oiles USA Holding Incorporated（現：Oiles America Corporation）を米国持株会社として設立
2000年3月	ISO14001環境マネジメントシステム認証取得
2001年4月	オペレーター鋼機株式会社とオイルス建材株式会社は合併し、オイルス・エコシステム株式会社（現：オイルスECO㈱）に名称変更
2002年4月	株式会社キソーはオイルス東日本販売株式会社（現：連結子会社）に名称を変更
4月	Oiles (Thailand) Company Limited（現：連結子会社）をタイ王国に合併で設立
2003年6月	Oiles Czech Manufacturing s.r.o.（現：連結子会社）をチェコ共和国に設立
10月	提出会社の建築機器事業部門を分割し、販売子会社のオイルス・エコシステム株式会社を事業継承会社として事業統合し、オイルスECO株式会社（現：連結子会社）へ社名を変更
2004年3月	Oiles Canada Corporation（2011年12月清算）をOiles America Corporationがカナダに設立
6月	Oiles Tribomet Gleitelemente GmbHはOiles Deutschland GmbH（現：連結子会社）へ社名を変更
2005年4月	自潤軸承（蘇州）有限公司（現：連結子会社）を中華人民共和国に設立
9月	Oiles France SAS（現：連結子会社）をフランス共和国に設立
2006年8月	東和電気株式会社の株式を追加取得し、完全子会社化
2007年4月	ユニプラ株式会社と東和電気株式会社は、ユニプラ株式会社（現：連結子会社）を存続会社とする合併を実施
2010年10月	オーケー工業株式会社（現：連結子会社）の株式を追加取得し、完全子会社化

年月	事項
2011年 1月	Oiles USA Holding Incorporatedを存続会社、Oiles America Corporationを消滅会社として合併し、合併後にOiles America Corporation (現：連結子会社)へ社名変更
3月	Oiles Self Lubricating Bearings Manufacturing Private Limited (現：Oiles India Private Limited)をインド共和国に設立
12月	Oiles Canada Corporationを清算
2012年 4月	Oiles Self Lubricating Bearings Manufacturing Private LimitedはOiles India Private Limited (現：連結子会社)へ社名を変更
11月	中国現地企業の大連三環複合材料技術開発有限公司の持分の一部を取得
2013年10月	大平産業株式会社は事業の一部をオイレス東日本販売株式会社へ譲渡し、オイレス西日本販売株式会社 (現：連結子会社)に社名変更
2014年 6月	甌依斯貿易(上海)有限公司(現：連結子会社)を中華人民共和国に設立
2015年 5月	大連三環複合材料技術開発有限公司との資本提携を解消
5月	株式会社リコーキハラ(現：連結子会社)の株式を追加取得し、完全子会社化
2017年 4月	ルービィ工業株式会社(現：連結子会社)の株式を追加取得し、完全子会社化
12月	ユニプラ株式会社(現：連結子会社)の株式を追加取得し、完全子会社化
2018年 1月	Oiles Brasil Eireli(現：連結子会社)をブラジル連邦共和国に設立
2019年 3月	オイレス西日本販売株式会社(現：連結子会社)の株式を追加取得し、完全子会社化

3【事業の内容】

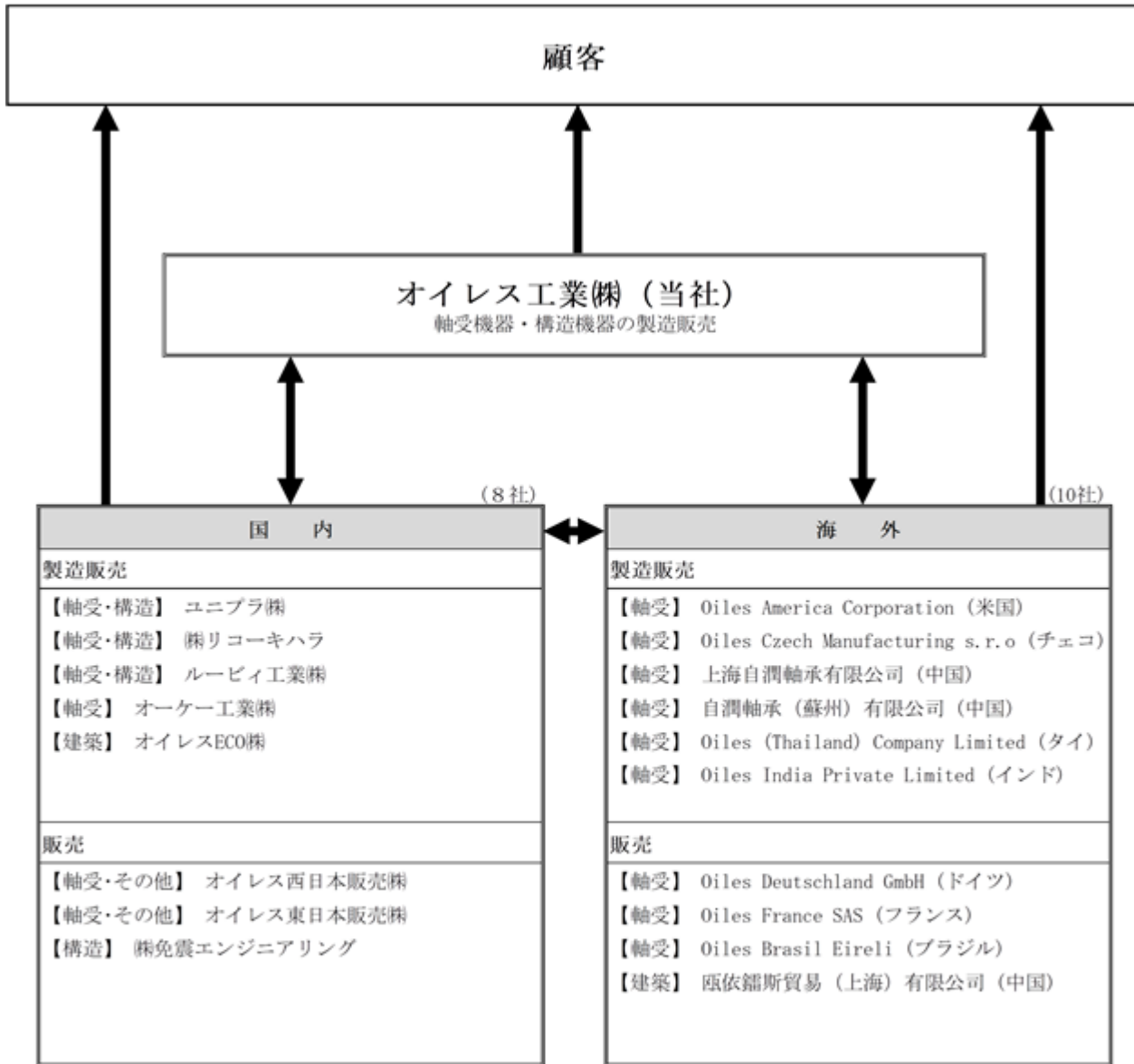
当企業グループは、連結財務諸表提出会社(オイレス工業株式会社)及び子会社18社により構成されており、軸受機器、構造機器、建築機器の製造販売を行っております。

上記の企業グループの営む主な事業内容と各社の当該事業における位置づけは、次のとおりであります。

なお、次の区分は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

セグメント	主要製品	連結財務諸表提出会社及び各社の位置づけ
軸受機器	オイルレスベアリング等	連結財務諸表提出会社が開発、製造及び販売を行っており、ユニプラ(株)、ルービィ工業(株)、(株)リコーキハラ及びオーケー工業(株)は特定製品の製造販売を、オイレス西日本販売(株)及びオイレス東日本販売(株)は特定地域における販売を行っております。また、Oiles America Corporation は北米市場における特定製品の製造販売を、Oiles Deutschland GmbH 及びOiles France SAS はヨーロッパ市場における特定製品の販売を、Oiles Czech Manufacturing s.r.o.はヨーロッパ市場における特定製品の製造販売を、上海自潤軸承有限公司及び自潤軸承(蘇州)有限公司は中国市場等における特定製品の製造販売を、Oiles (Thailand) Company Limited は東南アジア市場における特定製品の製造販売を、Oiles India Private Limitedはインド市場における特定製品の製造販売を、Oiles Brasil Eireliは南米市場における特定製品の販売を行っております。
構造機器	支承、免震・制震装置等	連結財務諸表提出会社が開発、製造及び販売を行っており、ユニプラ(株)、(株)リコーキハラ及びルービィ工業(株)は特定製品の製造販売を、(株)免震エンジニアリングは免震・制震装置のスペックイン活動及び設計・保守業務を行っております。
建築機器	ウィンドウ オペレーター 環境機器 住宅用機器等	オイレスECO(株)が開発、製造、販売、工事ならびに保守を行っており、甌依斯貿易(上海)有限公司が中国市場等における特定製品の販売を行っております。
その他	伝導機器類等上記以外の機器類	オイレス西日本販売(株)及びオイレス東日本販売(株)が伝導機器類の仕入販売を行っております。

以上の企業集団等について事業系統図を示すと次のページのとおりであります。



—凡例—

- 【軸受】 = 軸受機器
- 【構造】 = 構造機器
- 【建築】 = 建築機器
- 【その他】 = その他



4【関係会社の状況】

(1) 連結子会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合又は被所有割合(%)	関係内容
オイレスECO(株)	東京都 品川区	千円 200,000	建築機器	100.0	建築機器の製造販売 建物の賃貸借
オイレス西日本販売(株)	大阪府 大阪市西区	千円 46,000	軸受機器 その他	100.0	軸受機器、その他の販売 建物の賃貸借
オイレス東日本販売(株)	東京都 港区	千円 20,000	軸受機器 その他	100.0	軸受機器、その他の販売 建物の賃貸借
ユニプラ(株)	埼玉県 川越市	千円 78,000	軸受機器 構造機器	100.0	軸受機器、構造機器の製造販売 建物の賃貸借
(株)リコーキハラ (注)2	新潟県 中魚沼郡	千円 138,000	軸受機器 構造機器	100.0	軸受機器、構造機器の製造販売 資金援助
ルービィ工業(株)	福島県 大沼郡	千円 92,000	軸受機器 構造機器	100.0	軸受機器、構造機器の製造販売
オーケー工業(株)	滋賀県 守山市	千円 25,000	軸受機器	100.0	軸受機器の製造販売
(株)免震エンジニアリング	東京都 港区	千円 10,000	構造機器	100.0	構造機器に関するエンジニアリング サービス、建物の賃貸借
Oiles America Corporation	アメリカ ノース カロライナ州	千米ドル 2,200	軸受機器	100.0	軸受機器の製造販売 役員の兼任、資金援助
Oiles Deutschland GmbH	ドイツ ヘッセン州	千ユーロ 51	軸受機器	100.0	軸受機器の販売、資金援助
Oiles France SAS (注)4	フランス イヴリーヌ県	千ユーロ 37	軸受機器	100.0 (100.0)	軸受機器の販売
Oiles Czech Manufacturing s.r.o.	チェコ カダン市	千コルナ 100,000	軸受機器	100.0	軸受機器の製造販売 資金援助
上海自潤軸承有限公司	中国 上海市	千人民元 22,587	軸受機器	90.0	軸受機器の製造販売
自潤軸承(蘇州) 有限公司(注)2	中国 江蘇省	千人民元 75,543	軸受機器	100.0	軸受機器の製造販売
Oiles (Thailand) Company Limited	タイ ラヨン県	千バーツ 104,000	軸受機器	70.0	軸受機器の製造販売
Oiles India Private Limited(注)2、4	インド ハリヤナ州	千ルピー 800,000	軸受機器	100.0 (0.1)	軸受機器の製造販売
Oiles Brasil Eireli	ブラジル サンパウロ州	千リアル 11,000	軸受機器	100.0	軸受機器の販売
甌依斯貿易(上海) 有限公司(注)4	中国 上海市	千人民元 2,180	建築機器	100.0 (100.0)	建築機器の販売

(注)1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。

3. 上記子会社には有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

4. 議決権の所有割合の()内は間接所有割合で内数であります。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2020年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	
軸受機器	1,571	(425)
構造機器	136	(32)
建築機器	155	(15)
報告セグメント計	1,862	(472)
その他	9	(-)
全社(共通)	214	(34)
合計	2,085	(506)

(注) 1. ()内の人数は、嘱託及び臨時雇用者数の平均人員を外数で記載しております。

2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理・研究部門等に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
794 (311)	44.3	17.2	7,522,129

セグメントの名称	従業員数(人)	
軸受機器	509	(253)
構造機器	130	(32)
報告セグメント計	639	(285)
全社(共通)	155	(26)
合計	794	(311)

(注) 1. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

2. ()内の人数は、嘱託及び臨時雇用者数の平均人員を外数で記載しております。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理・研究部門等に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

提出会社の労働組合は、JAMに加盟しており、2020年3月31日現在における組合員数は648人であります。当企業グループ内における労使関係は安定しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 経営方針

当企業グループは『オイルレスベアリングの総合メーカーとして世界のリーダーとなり、技術で社会に貢献する』ことを経営理念としております。この経営理念は、「独創的な研究開発によって摩擦・摩耗・潤滑というコア技術を極め、これをグローバルに展開し、社会に貢献する」という創業の精神と志を、経営の基本としたものです。

ベアリング（軸受）を単なる一機械部品として位置づけるのではなく、より広い視点で“BEAR”（耐える、支える、伝える、運ぶ）するものと捉えることで、いつの時代も社会に必要とされる製品を独自の技術で生み出してきました。主力製品である『オイルレスベアリング』は、無給油あるいは給油回数を減少させる環境に配慮した要滑部材です。メンテナンスの軽減や省エネルギーにつながる機械要素部品として、自動車や建設機械、情報機器、生産設備などの機械装置にとどまらず、ダムや水門などの構造物まで極めて広範な分野で使われています。また当企業グループの事業は、オイルレスベアリングで培ったトライボロジー技術に振動を制御するダンピング技術を加えることによって、大規模地震による建物などへの被害を軽減する『免震・制震装置』や、トライボロジー技術の応用によって、火災時の安全を確保する『排煙・換気システム』へと展開され、都市機能や社会基盤の維持・発展を支えるようになりました。

当企業グループは、軸受機器・構造機器・建築機器の3つの事業を主な柱としていますが、省エネルギーを実現して環境負荷低減に貢献していることや、社会に「安心・安全」や「快適さ」を提供しているという観点から、いわば事業そのものが高い社会貢献性を持つものであり、この点にこそ当企業グループの存在意義があるものと考えております。そして当企業グループは、お客様が「世界初」「世界一」となるために必要不可欠な製品を開発し続け、社会の持続的な発展に貢献するという飽くなき挑戦を続けていきます。

(2) 経営戦略等

当企業グループは経営理念実現に向け次の長期ビジョンを掲げ、理想とする企業への成長を目指します。

《長期ビジョン》

- ・世界が求める製品と技術を通して、地球環境の保全に寄与し、「安心」「安全」「快適」を届ける企業
- ・トライボロジー技術（摩擦・摩耗・潤滑）とダンピング技術（振動制御）を究め、「世界に一つ」の製品を創り出す市場創造企業
- ・高い社会貢献性を有する事業により、社会的責任（CSR）を果たし、持続可能な社会の実現に役立つ企業

セグメントごとの経営戦略等は以下のとおりであります。

（軸受機器）

一般産業機械向け、自動車向け製品ともに顧客分析を徹底した営業活動を行い、新しい需要と機会を見極め、売上と利益の拡大を目指します。将来に向けた新案件の発掘と開発をスピーディに実施すべく、藤沢事業場においては技術・研究開発エリアを拡充し（2021年度完了予定）、ベアリングテクノロジーの頂点を目指し、常に市場に新しい価値を提供します。

（構造機器）

構造機器事業は人命や建物・設備、社会インフラなどを地震から守る、まさに当社の経営理念である「技術で社会に貢献する」事業であります。橋梁向け製品においては鉄道橋、道路橋の新設及び補修・補強の需要にそれぞれ最適な競争力のある製品・提案力・実績・営業力で受注拡大を図ります。建築向け製品においては、滑り技術を応用した製品や長周期地震動に対応した製品をさらに拡充し、免制震市場のシェア拡大を目指します。

（建築機器）

主力であるウィンドウ オペレーターは、従来の排煙だけにとらわれず、換気による快適環境、省エネなどに適合する事業であります。販売網や施工体制の強化と改善によりトップシェアを維持するとともに、リニューアル物件の獲得に注力します。住宅向け製品については代理店網の強化や新規のOEM獲得により、売上と利益の拡大を目指します。

(中期経営計画について)

当企業グループでは、次期グループ中期経営計画(第 期中期経営計画)につきまして、2021年3月期を初年度とする3年度を対象期間として策定をしておりましたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が経営環境や事業環境に与える影響により当初想定していた前提が大きく変化したため、第 期中期経営計画は2022年3月期からの3年度を対象期間として改めて策定することといたしました。

この新しい第 期中期経営計画は2021年5月の発表を予定しております。

なお、2018年11月にプレスリリースをしました藤沢事業場の研究開発拠点としての拡充計画に変更の予定はありません。

(3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当企業グループは目標とすべき経営指標として(1)売上高営業利益率、(2)自己資本当期純利益率(ROE)を重視しております。(1)は本来事業により獲得する利益、(2)は資本の効率性の観点から獲得すべき利益の目標として、事業活動を推進する上での指標としております。

なお、この両指標を高めることで、企業価値向上が図れるものと考え、売上高営業利益率は15%以上、自己資本当期純利益率は10%以上を目指しております。当連結会計年度における売上高営業利益率は7.9%であり、自己資本当期純利益率は5.8%でした。引き続きこれらの目標が達成されるように取り組んでまいります。

(4) 経営環境と優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当企業グループを取り巻く環境は大きく変化しております。新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大による景気後退は長期化が懸念され、個人消費や各産業における需要の回復、サプライチェーンの安定化には時間を要するものと思われます。このような状況のなか、当企業グループは、「健康と安全」と「製品の供給責任」の両立を最優先として取り組みを進めております。また、環境の変化を迅速に捉え、将来の柱となる独創的な材料、製品を開発し続けるとともに、その技術によって持続可能な社会の実現に貢献しオイレスブランドの確立を図ってまいります。

さらに、「選択と集中」をグループ全体にわたって徹底し、企業体質の強化や、技術力と生産性の向上を図ります。加えて、コンプライアンスの徹底やコーポレートガバナンス・コードを踏まえての社内体制強化、CSR活動の更なる推進等の取り組みにより、株主やお客様をはじめとするステークホルダーの皆様へ「安心」「安全」「快適」を届け、皆様からの信頼と共感を得られるよう、今後もグループ一丸となって会社の持続的発展に努めてまいります。

(新型コロナウイルス感染症への対応について)

喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症に対しては、当社は、2月に代表取締役社長を本部長とする新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、従業員のみならずお客様をはじめとする関係者の皆様の健康と安全を配慮し、政府の施策等を踏まえながら、社員の体調管理、手洗い・咳エチケットの励行、マスク・消毒用アルコールの備蓄、職場における「3密」の解消や、時差出勤・リモートワーク(在宅勤務)の実施など、さまざまな感染予防対策に取り組んでおります。

また、事業・生産活動への影響については、海外関係会社では中国・インド・米国において各国行政府からの要請に応じて工場の操業を停止するなどの対応を実施し、また国内工場・国内関係会社では、受注動向を踏まえ、生産供給体制に影響のない範囲で、数日間の休業措置をとるなどの対応を実施しております。

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当企業グループが判断したものであります。

(1) 経済・金融市場動向に関するリスク

景気後退による需要減少のリスク

当企業グループの製品は、自動車をはじめ各種産業機械や建築・建設物等に多く採用されております。世界や我が国の景気後退や経済成長の減速という事態が発生した場合、製品需要すなわちこれらの生産台数や着工件数が減少し、当企業グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

原材料価格上昇リスク

当企業グループ製品の主要材料である鋼材、銅合金、樹脂系原料等は、需給バランス、為替レート変動等に伴い市場価格が変動します。当企業グループは、原材料価格の市場変動に柔軟に対応するべく、生産の合理化、高品質な原材料をタイムリーかつ必要数入手するための調達先の分散化、代替材料の検討等による原価低減施策を図るとともに、競合他社の価格動向に注視しつつ売価へ適切に反映することにより影響の軽減を図っておりますが、予測を超えて市場価格に急激な変化が生じた場合、当企業グループの経営成績及び財政状態に影響を受ける可能性があります。

為替レートの変動リスク

当企業グループは外貨建取引から発生する為替変動の影響を受ける可能性があります。連結財務諸表作成のために円換算されますが、在外子会社の外貨項目の価値が変動しない場合でも為替相場の変動により、当企業グループの経営成績及び財政状態に影響を受ける可能性があります。

また、個別の外貨建取引においては、原材料の現地調達化を図ることや、通貨スワップ契約によるリスクヘッジ等により、為替レート変動の影響を抑制するように努めておりますが、為替レートの変動が、当企業グループの経営成績及び財政状態に影響を受ける可能性があります。

(2) 事業戦略及び戦略に関わる外部環境に関するリスク

海外事業展開に伴うリスク

当企業グループは、自動車メーカーの海外進出に合わせ現地生産体制を強化してきており、北米、欧州、アジアに製造・販売拠点を有しております。その結果、海外向けの売上高は連結売上高の33.5%を占めておりますが、当企業グループの製品を製造・販売している各国の景気後退やそれに伴う当社製品需要の縮小、あるいは海外各国における政治・社会・経済体制が変動する可能性もあります。

当企業グループは、これらのリスク低減を図るため、経営企画部と海外子会社を所管する事業部が連携し、貿易保険等によるリスクヘッジ、海外子会社との緊密な情報交換及び継続的モニタリングにより、顕在化したリスクの極小化を図ります。

しかしながら、当企業グループの製品を製造・販売している各国の景気あるいは政治・社会・経済体制に予想を超える急激な変動が生じた場合、当企業グループの経営成績と財政状態に影響を受けるおそれがあります。

特定業種（自動車産業向け）への高依存度リスク

当企業グループにおける自動車関連売上高は全体の47.2%を占めております。これまで、製品の優位性、新規用途での採用拡大及び、グローバル展開等により比較的安定的な業績を確保してまいりましたが、自動車産業そのものを変革するCASE（Connected（コネクティッド）、Autonomous/Automated（自動化）、Shared（シェアリング）、Electric（電動化））、カーメーカー以外の事業者による参入、産業構造変化に伴う構成部品の変動に加え、自動車市場の需要動向に大きな変化が起こった場合は、業績に影響を受ける可能性があります。

当社では、CASEをはじめとした自動車産業の将来を見据え新規開発を進めておりますが、今後は更に技術領域を拡大し、開発速度を加速することで、変革に対応してまいります。

価格競争リスク

当企業グループの主力販売先であります自動車業界をはじめとして、すべての業界におきましてグローバルで競争が厳しい状況にあります。当企業グループは、技術的優位性のある高品質製品の開発、顧客が抱える課題を共に解決する提案型技術営業の充実による付加価値の提供、製品ラインナップの充実等により、顧客満足を獲得してまいります。

しかしながら、今後新興国メーカー等の台頭による低価格品の伸長に起因して値下げ要求が続きますと業績に影響が出る可能性があります。

知的財産権リスク

当企業グループは独自の製品開発により毎年50件近く国内外において特許権、商標権及びその他の知的財産権を出願しており、当社単体では、売上高に占める特許等製品の比率は55.4%に達しております。しかしながら、一方で特許等の権利満了に伴い他社が参入してくるリスクも内在しております。当企業グループは、技術開発又は製品開発により周辺特許も含めた新たな特許等を取得し、他社の参入を排除していきませんが、売上高に占める割合が高い製品について他社の参入を許した場合は、当企業グループの業績に影響を与える可能性があります。

また、当企業グループが第三者の知的財産権を侵害したとして第三者から訴えられた場合、係争費用のみならず、損害賠償の支払や製造販売の差し止めが発生するおそれがあり、その結果、市場そのものを失う場合には、当企業グループの事業展開、業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

これらのリスクに備え、当企業グループでは、製品開発段階から知的財産管理規程に従い第三者の知的財産権の侵害可能性、新たな発明等の権利化の可能性等について十分な調査・検討を行っております。また、ノウハウについては秘密情報管理規程に基づいた適切な保護、管理を徹底しております。

公共投資縮減のリスク

当企業グループにおける構造機器事業の売上高は、全体の18.9%となっております。当事業に係る売上は、我が国の公共投資事業の予算額等に影響を受ける可能性があります。

当企業グループは、事業収益性の改善、事業規模に見合った人員数への見直し、コスト構造の改善等により公共投資額の影響を受けにくい体制への強化、橋梁・建築に加え、新たに柱となる市場の創出を目指し、製品開発に取り組んでおります。

(3) 業務運営に関するリスク

品質不適合発生によるリスク

当企業グループの製品は、高精度・省力化を必要とする多くの機械・産業分野や最終製品で使用され、自動車その他、鉄道車両、水車・水門、橋梁等の社会基盤分野や様々なビルの免震・制震装置、一般住宅にも幅広く採用されております。

当企業グループは、あらゆる顧客・市場の要求に適合する品質保証体制とするために国内外各社の事業において、国際品質マネジメント規格(ISO9001又はIATF16949)を取得しています。更に、当企業グループの顧客が要求する固有の品質基準等に対応する管理を徹底しております。

製品開発においては、初期段階から研究開発・生産技術・製造・営業などの部署がそれぞれの視点から品質課題を抽出し、過去の社内外の品質トラブル情報なども活用して解決するという手法を取り入れており、新製品として発売するまでの段階においても、製品設計・工程設計のデザインレビューにより品質面の検証をおこないリスクの極小化を図っております。

しかしながら、製品に未知の重大な欠陥が存在し、当該欠陥に起因する事故、リコール及び顧客の生産停止等の事態が発生した場合、当企業グループの社会的信用の低下等につながり、また、補償により多額の支出が生じた場合には、業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

なお、当企業グループはグローバルな製造物責任保険に加入しておりますが、損害賠償等の損失を十分にカバー出来るとは限りません。

環境リスク

当企業グループは、地球環境の保護に積極的に取り組んでおり、「オイレスグループ環境方針」を定め環境負荷物質への対応をすすめております。製品開発においては、樹脂系・複層系の軸受全製品を鉛フリー化する等環境配慮製品の開発にも努めております。

しかしながら、想定外の事態が発生した場合には、社会的評価の低下を招くとともに、何らかの法的若しくは社会的責任を負う事態が生じるおそれがあります。その場合、対応費用の発生及び当企業グループの社会的信用の低下を招く可能性があります。

当企業グループでは、地球温暖化、水質汚濁、産業廃棄物、有害物質、土壌汚染等に関する環境法令及びその他の要求事項を遵守するため、ISO14001に沿った環境マネジメントシステムを構築し推進しております。

労務・人材リスク

当企業グループは、政府の進める働き方改革について、それ以前より時間外労働の削減、有給休暇の計画的取得等、ワークライフバランスを意識した労務管理をおこなっております。

しかしながら、労働市場環境により優秀な人材が確保できない場合、人材不足により技能が適切に伝承されない場合、また、有能な人材が流出する場合には、当企業グループの業績に影響を与える可能性があります。

当企業グループは、経営、技術開発、製造、営業その他の機能において優秀な人材の確保に努めており、人材獲得のために新卒採用や経験者の通年採用を積極的に展開しており、生産技術等の継承のためにも計画的な後継者育成・指導を行っております。

情報セキュリティリスク

当企業グループは、研究開発、生産、販売等に関する機密情報に加え、お客様や従業員の個人情報等を保有しております。これらの情報管理につきましては各種情報の取扱い規程による情報管理、社員教育等を実施し、情報セキュリティシステムの安定的運用に努めております。

これらの機密情報、個人情報の漏洩によるリスクのほか、自然災害、事故、コンピューターウイルス、不正アクセスその他の要因により情報システムに重大な障害が発生した場合、当企業グループの事業、業績及び財政状態に悪影響を与える可能性があります。これらの影響を極小化するために、当企業グループでは、ネットワークの冗長化、重要データのバックアップと複数のデータセンターによる保管等により、システムの復旧が容易になされる体制を構築しております。

(4) 法的手続・災害等のイベント性のリスク

法的リスク

国内、海外を問わず、独禁法、安全保障貿易管理、贈収賄等、当企業グループの事業に関連する法令・規制は多岐にわたっています。

これらの法令等へのコンプライアンスの徹底が十分でなく適用法令等の違反が発生した場合、あるいは過去に行った事業活動に対して法令違反を問われることがあった場合には、処罰、処分その他の制裁、あるいは社会的信用やイメージの毀損により当企業グループの業績等に悪影響を及ぼす可能性があります。

当企業グループでは、「オイレスグループ企業行動憲章」「企業行動規範」に加え、役職員に対する各種研修等を通じ、これらの法令等へのコンプライアンスの徹底を図っております。

災害・感染症・テロ等の事業継続に影響を及ぼす事象のリスク

当企業グループは、日本国内はもとより、米州、欧州、アジアに製造・販売拠点を有しておりますが、これらの事業拠点において、大規模地震・水害・火災等の災害、感染症の世界的蔓延（パンデミック）、企業に対するテロ攻撃、紛争による政情不安が発生した場合には、生産設備や人的資源等の経営資源に被害が生じることとなり、当企業グループの事業継続に大きな障害をあたえることがあります。こうしたリスク事象の発生頻度は高くはありませんが、万一事象が発生した場合には、当企業グループの経営成績と財政状態に大きな影響を及ぼすこととなります。

かかるリスク事象に対して、当企業グループは、大規模地震等の不測の事態が発生した場合の対策として事業継続計画(BCP)を策定して、有事の際の行動計画を定めるとともに、減災に向けた事前対策等を進めております。また、当企業グループでは、2020年初頭から世界的に蔓延している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）も事業継続に影響を及ぼす事象と認識し、代表取締役社長を本部長とする新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、感染防止等に向けた対策を推進しております（新型コロナウイルス感染症に関する記載は9ページを参照）。

なお、自然災害等に依る被害については、保険により補償される部分もありますが、その全てが補償される訳ではありませんので、テロ対策も含めてその対応は重要な経営課題として万全を期してまいりますが、リスクを完全に回避することは困難であります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当企業グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における国内経済は、米中間での貿易摩擦の長期化により製造業を中心に景気減速が続き、さらに新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な感染拡大により、各国の経済活動が急激に制限され、景気の下振れは今後さらに深刻化かつ長期化するといった懸念が広まっております。このような環境にあつて当企業グループは、様々な変化を迅速に捉え、お客様のニーズに的確に対応することで受注獲得に注力しており、特に大型プロジェクトの確実なスペックインや、次の柱となる製品の積極的な事業展開、グループをあげての非日系顧客開拓などを推進してまいりました。

この結果、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

(a) 財政状態

当連結会計年度末の資産合計は前連結会計年度末に比べ571百万円増加し、79,887百万円となりました。

当連結会計年度末の負債合計は前連結会計年度末に比べ264百万円減少し、19,245百万円となりました。

当連結会計年度末の純資産合計は前連結会計年度末に比べ835百万円増加し、60,642百万円となりました。

(b) 経営成績

当連結会計年度の経営成績は、売上高は60,165百万円（前期比1.9%減）、営業利益は4,749百万円（前期比5.6%減）、経常利益は5,072百万円（前期比3.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は3,432百万円（前期比8.2%減）となりました。

セグメントの実績は次のとおりであります。

軸受機器セグメントの売上高は41,542百万円（前期比7.8%減）、セグメント利益は2,665百万円（前期比30.7%減）となりました。

構造機器セグメントの売上高は11,352百万円（前期比25.4%増）、セグメント利益は1,859百万円（前期比67.7%増）となりました。

建築機器セグメントの売上高は5,903百万円（前期比1.5%増）、セグメント利益は196百万円（前期比276.1%増）となりました。

なお、地域に関する情報のうち顧客の所在地を基礎とした売上高は、日本向けが39,991百万円（連結売上高に占める割合は66.5%）、北米向けが4,179百万円（同6.9%）、欧州向けが2,909百万円（同4.8%）、アジア向けが11,622百万円（同19.3%）、その他の地域向けが1,462百万円（同2.4%）となり、海外向けの合計は前期の21,768百万円（同35.5%）より7.3%減少し、20,173百万円（同33.5%）となりました。

キャッシュ・フローの状況

（単位：百万円）

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,861	8,292	4,431
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,295	3,549	1,745
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,332	1,744	6,076
現金及び現金同等物の期末残高	18,860	21,832	2,972

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ2,972百万円増加し、21,832百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、前連結会計年度に比べ4,431百万円増加し8,292百万円となりました。主な内訳は、収入項目では税金等調整前当期純利益4,890百万円、減価償却費2,857百万円、支出項目では仕入債務の減少額759百万円、法人税等の支払額577百万円などであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、前連結会計年度に比べ1,745百万円減少し3,549百万円となりました。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出3,743百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、前連結会計年度に比べ6,076百万円増加し1,744百万円となりました。これは配当金の支払額1,570百万円、リース債務の返済による支出137百万円などであります。

生産、受注及び販売の実績

(a) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	前年同期比(%)
軸受機器(百万円)	41,150	90.2%
構造機器(百万円)	11,192	118.8%
建築機器(百万円)	5,857	99.9%
報告セグメント計(百万円)	58,200	95.6%
その他(百万円)	1,486	99.2%
合計(百万円)	59,687	95.7%

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(b) 受注実績

当連結会計年度の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
軸受機器	41,119	91.6	2,559	85.9
構造機器	11,264	109.1	8,304	98.9
建築機器	5,887	99.5	882	98.6
報告セグメント計	58,271	95.3	11,746	95.8
その他	1,297	90.6	258	77.0
合計	59,568	95.2	12,005	95.3

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2. 金額は販売価格によっております。
 3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(c) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	前年同期比(%)
軸受機器(百万円)	41,538	92.2
構造機器(百万円)	11,352	125.4
建築機器(百万円)	5,899	102.1
報告セグメント計(百万円)	58,790	98.2
その他(百万円)	1,374	93.7
合計(百万円)	60,165	98.1

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当企業グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

(a) 財政状態

(資産合計)

当連結会計年度末の資産合計は前連結会計年度末に比べ571百万円増加し、79,887百万円となりました。その主な要因は次のとおりであります。

流動資産は、現金及び預金3,453百万円の増加、受取手形及び売掛金1,009百万円の減少、有価証券499百万円の減少などにより、合計で1,117百万円の増加となりました。

固定資産は、有形固定資産619百万円の増加、投資有価証券856百万円の減少などにより、合計で545百万円の減少となりました。

(負債合計)

当連結会計年度末の負債合計は前連結会計年度末に比べ264百万円減少し、19,245百万円となりました。その主な要因は次のとおりであります。

流動負債は、支払手形及び買掛金815百万円の減少、未払法人税等635百万円の増加、1年内返済予定の長期借入金545百万円の増加などにより、合計で200百万円の増加となりました。

固定負債は、長期借入金545百万円の減少などにより、合計で464百万円の減少となりました。

(純資産合計)

当連結会計年度末の純資産合計は前連結会計年度末に比べ835百万円増加し、60,642百万円となりました。これは利益剰余金1,860百万円の増加、その他有価証券評価差額金628百万円の減少、為替換算調整勘定405百万円の減少などによるものであります。

(b) 経営成績

売上高は、一般産業機械向け製品及び自動車向け製品の受注減少により、前連結会計年度に比べ1.9%減少し、60,165百万円となりました。

営業利益は、主力である軸受機器事業の売上高減少により、前連結会計年度に比べ5.6%減少し、4,749百万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、上記のほか、法人税等の1,363百万円などにより3,432百万円となりました。

セグメントごとの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は以下のとおりであります。

(軸受機器)

一般産業機械向け製品は、国内外における設備投資及びインフラ投資の減速に伴い、主力である射出成形機や産業車両、半導体製造装置向けなどの受注が減少しました。その他一般部品についても、米国、中国向けの輸出需要が減少し、売上、利益とも前年を下回る結果となりました。また、自動車向け製品は、前年から続く貿易摩擦が引き続き影響し、国内外ともに自動車生産台数が減少、さらに消費税増税による国内消費の冷え込みが影響し、売上、利益とも前年を下回る結果となりました。

この結果、軸受機器セグメントの売上高は41,542百万円（前期比7.8%減）、セグメント利益は2,665百万円（前期比30.7%減）となりました。

今後は、グローバルで最適な生産体制の構築と、IoTなど最新技術の駆使により、生産性能向上、コスト競争力を強化させるとともに、営業及び技術は新市場開拓を継続し、幅広い市場への参入により事業のさらなる拡大を目指します。

(構造機器)

橋梁向け製品は、積極的な営業活動により大型プロジェクトの受注を獲得し、前年の売上を大きく上回って利益を大幅に押し上げました。建築向け製品については、大型案件へ制震装置の採用などがあったものの、前年と比べると売上は減少しました。

この結果、構造機器セグメントの売上高は11,352百万円（前期比25.4%増）、セグメント利益は1,859百万円（前期比67.7%増）となりました。

今後も、顧客ニーズの変化をすばやく察知し、独自の技術力を活かした収益性の高い製品で他社との差別化を図り、積極的な営業活動を行います。また、新たな事業として物流及びインフラ設備等に向けた市場開拓を進めており、従来の建築機器、橋梁機器に次ぐ第三の柱への成長に向け積極的に推進してまいります。

(建築機器)

主力製品であるウィンドウ オペレーターは物件の減少や小型化が見られたものの、大都市圏を中心に大型施設や再開発案件、改修案件等の受注により、前年並みの売上を維持しました。住宅向け外付けブラインドについては、着工戸数の減少や消費税増税による個人消費の落ち込みが影響したものの、強化した広告宣伝の効果や新規取引先への積極的な営業活動の結果、前年並みの売上を維持しました。

この結果、建築機器セグメントの売上高は5,903百万円（前期比1.5%増）、セグメント利益は196百万円（前期比276.1%増）となりました。

ウィンドウ オペレーターは、火災時の排煙機能だけでなく日常の換気機能としても利用ができることから、新型コロナウイルス感染症の対策として注目を集めております。今後は使用頻度の増加とともにメンテナンスの需要が高まることから、リニューアル物件の獲得に注力し、収益性の改善に取り組めます。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

(キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容)

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要、 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

(資本の財源及び資金の流動性に係る情報)

当企業グループは現在、運転資金、投資資金についてはまず営業キャッシュ・フローで獲得した内部資金の活用を基本としております。事業計画に基づく資金需要に対し内部資金が不足することとなった場合は、金利動向等の調達環境を考慮の上、調達手段を適宜判断して実施していくこととしております。なお、前連結会計年度において、大分工場拡張に係る資金調達などを目的としてシンジケートローン契約を締結し、6,000百万円を調達しております。

当企業グループの資金需要は、営業活動については、生産活動のための製造費（主に製品を生産するための材料仕入等）、受注・販売活動のための販売費、新たな製品の開発や既存製品の改良開発等を行うための研究開発費が主な内容となっております。投資活動については、事業伸長・生産性向上を目的とした生産設備等固定資産の取得が主な内容となっております。

今後の資本的支出の予定につきましては、急成長を続けるグローバルな市場ニーズに迅速かつ柔軟に対応できる体制を整え、成長戦略を加速するため、必要な設備投資や研究開発投資を継続して行ってまいります。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当企業グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表の作成にあたりましては、会計方針の選択、適用、資産・負債や収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としています。見積りにつきましては、過去の実績や状況を踏まえた合理的な判断を基礎として行っていますが、この見積りは不確実性が伴うため実際の結果と異なる場合があり、結果として連結財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。当企業グループの連結財務諸表において採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況」、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」及び「重要な会計方針」に記載しています。

4【経営上の重要な契約等】

(1) 提出会社が行っている業務提携契約

契約会社名	契約の内容	契約期間
株式会社川金コアテック (川口市)	オイレス支承の販売、商標の使用ならびに部材の供給	自 1972年1月1日 至 1975年12月31日 (自動延長につき契約継続中)

(2) 提出会社が技術援助等を与えている契約

契約会社名	契約内容	対価	契約期間
Johnson Metall AB (ノルウェー)	固体潤滑剤充填金属軸受の製造販売	ランニングロイヤリティ	2019年5月16日から5年間

(3) 提出会社が技術援助を受けている契約

契約会社名	契約内容	対価	契約期間
西日本プラント工業株式会社 (福岡市)	防錆技術の実施許諾	ランニングロイヤリティ	2007年6月1日から3年間 (注)1

(注)1. 提出日現在においては、覚書により契約継続中であります。

5【研究開発活動】

当企業グループは長年の研究開発で培ってきた摩擦・摩耗・潤滑に関わるトライボロジー技術と、免震・制震をはじめとしたダンピング（振動制御）技術をコア技術とする強みを活かし、軸受機器、構造機器、建築機器の分野を中心に、お客様のニーズに対応し「世界初・世界一」となる新製品の開発や既存製品の改良開発をスピーディに取り組んでおります。

軸受機器においては、グローバル競争に対応すべく、現地においての依頼試験対応、システム評価による提案を強化し、次世代重点部品となる新製品開発に取り組んでおります。自動車向け製品では、次世代車のアプリケーションに応じた製品開発を推進するとともに、コア技術を応用した新材料、新製品の創出に力を入れています。一般産業向け製品では、トライボロジー技術を追求し、グローバル展開を前提とした新材料の開発を進め、グローバルでのさらなるシェア拡大に努めております。

構造機器においては、更なる高性能、高品質の免制震装置の開発を継続的に推進するとともに、長周期長時間地震動対応、構造物の振動低減や長寿命化対策など市場ニーズに対応した製品の開発・改良を進め、市場の拡大と顧客満足度向上に努めております。また工場設備、インフラ設備などBCP関連分野に対する免震、制震装置の開発にも努めております。

建築機器においては、お客様の視点に立って、独創的かつ魅力的な商品やサービスを社会に提供できるよう新製品の開発を進めております。外付けブラインドは、日射遮蔽・断熱採光機能と通風・プライバシーの保護機能を併せ持ち、建物の快適空間創造と省エネ効果に貢献するよう研究開発に努め、ウィンドウ オペレーターは引き続きリニューアル・メンテナンスを強く推奨しつつ、高まる通風換気の需要に対して高次元に再生させ、省資源・循環型社会の形成に寄与できるよう開発に努めてまいります。

現在の研究開発担当者の人員は202名となっております。また、当連結会計年度の研究開発費は2,573百万円（売上高比4.3%）、前連結会計年度は2,698百万円（売上高比4.4%）です。

なお、当連結会計年度末において当社が保有する産業財産権は次のとおりです。

日本国内産業財産権1,341件（この他出願中のもの168件）

外国産業財産権1,134件（この他出願中のもの340件）

各セグメント別の製品開発状況と研究開発費は次のとおりです。

(1) 軸受機器

国内外拠点への設備投資を積極的に行い、生産体制の整備と現地での技術対応力の強化を継続して進めています。また、市場の技術進歩に対応する為、藤沢事業所を研究開発拠点として大幅に拡充します。最先端技術をいち早く展開することでシステム提案、付加価値提案をさらに強化し、常に市場に新しい価値を提供してまいります。

自動車部品分野においては、欧米工場での自動化などによる生産ラインの増強を図っており現地での増加する需要に対応していきます。国内では、大分工場の最新鋭ラインの導入及び藤沢事業所の研究開発部門の強化による次世代自動車のニーズを想定した付加価値提案を推し進めており、新用途・新領域における引き合い、開発案件が増加しております。

一般産業部部分野においては、市場のニーズを迅速且つ、的確に掴み、当社の材料、製品開発に繋げることで、継続した新製品の上市を進めています。コア技術であるトライボロジー技術を駆使し、コンポジット材料の高機能化、環境法規適合材料等の付加価値製品の創出に向けた取り組みをしています。

軸受機器に係る研究開発費は1,870百万円であります。

(2) 構造機器

建物向けでは、低層から超高層ビルまで、免震装置（鉛プラグ入り積層ゴム支承・すべり支承）、制震装置（粘性型制震壁・摩擦型制震壁）の高性能化、高耐久性を実現する研究開発に取組み、長周期長時間地震動に効果を発揮する製品を提供してまいります。

橋梁向けでは、補修・耐震改修用すべり支承やダンパー等の耐震・減衰装置の開発により、市場ニーズに応える新製品を提供してまいります。

構造機器に係る研究開発費は638百万円であります。

(3) 建築機器

ビル用機器では、ウィンドウ オペレーターは使用者の利便性向上や高まる「健康空調・通風換気」使用のための耐久性を考慮した製品、自然換気装置では引き続き高層ビル向けBCP対応機能を強化した製品の開発に取り組んでまいりました。

住宅用機器では、外付けブラインド「BRILL」をより多くの方にご採用いただくためテレビCMやWEB広告など宣伝活動にも力を注いでおり、お客様の要望をもとに製品の改良開発に取り組んでまいりました。

建築機器に係る研究開発費は64百万円であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は3,442百万円であります。その主な内容は、工場拡張、各工場の設備更新及び合理化用設備の取得であります。

軸受機器においては、提出会社の藤沢事業場を中心に3,176百万円の設備投資を実施いたしました。

構造機器においては、提出会社の足利事業場を中心に241百万円の設備投資を実施いたしました。

建築機器においては、オイレスECO(株)の近江工場を中心に22百万円の設備投資を実施いたしました。

なお、上記の設備投資等の総額には、無形固定資産及び長期前払費用への投資額を含めて表示しております。

2【主要な設備の状況】

当企業グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)	
			建物及び 構築物 (百万円)	機械及び 装置 (百万円)	土地 (面積㎡)(百万円)		その他 (百万円)		合計 (百万円)
藤沢事業場 (神奈川県 藤沢市)	軸受機器 (本社)	試験研究設備 販売・本社設備	1,583	385	-	-	226	2,195	313
	軸受機器	生産設備	360	526	29,755	154	57	1,097	103
滋賀工場 (滋賀県 栗東市)	軸受機器	生産設備	690	499	34,633 (1,223)	565	53	1,808	84
大分工場 (大分県 中津市)	軸受機器	生産設備	3,196	950	39,030	205	87	4,440	74
足利事業場 (栃木県 足利市)	構造機器	試験研究設備	0	0	-	-	23	23	16
		生産設備	22	16	42,977	693	23	755	61
本店及び各営業所 (東京都 港区 他11カ所)	軸受機器 構造機器 (本社)	販売・本社設備	48	0	219	133	7	188	143
厚生施設他	(本社)	厚生施設他	11	-	6,450	114	1	127	-

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品等であり、建設仮勘定は含んでおりません。

2. 賃借している土地の面積を()で外書きしております。

(2) 国内子会社

会社名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)	
			建物及び 構築物 (百万円)	機械及び 装置 (百万円)	土地 (面積㎡)(百万円)		その他 (百万円)		合計 (百万円)
(株)リコーキハラ (新潟県 中魚沼郡他)	軸受機器 構造機器	生産設備	205	112	32,295	53	10	382	103
ルービィ工業(株) (福島県 大沼郡他)	軸受機器 構造機器	生産設備	367	115	21,189	223	10	717	84
ユニプラ(株) (埼玉県 川越市他)	軸受機器 構造機器	生産設備	389	237	10,013	43	18	688	72
オイレスECO(株) (滋賀県 近江八幡市他)	建築機器	生産設備	252	22	17,081	411	27	713	153
オーケー工業(株) (滋賀県 守山市)	軸受機器	生産設備	20	39	1,251	77	1	138	16

(注) 帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品等であり、建設仮勘定は含んでおりません。

(3) 在外子会社

会社名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)	
			建物及び 構築物 (百万円)	機械及び 装置 (百万円)	土地 (面積㎡) (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)		
Oiles America Corporation (アメリカ ノースカロライナ州)	軸受機器	生産設備	662	746	96,678	114	133	1,657	175
上海自潤軸承有限公司 (中国 上海市)	軸受機器	生産設備	20	140	(4,132)	-	57	217	110
Oiles (Thailand) Company Limited (タイ ラヨン県)	軸受機器	生産設備	273	326	24,000	102	127	830	119
Oiles Czech Manufacturing s.r.o. (チェコ カダン市)	軸受機器	生産設備	326	250	40,000	53	27	657	58
自潤軸承(蘇州)有限公司 (中国 江蘇省)	軸受機器	生産設備	916	699	(30,000)	-	453	2,069	197
Oiles India Private Limited (インド ハリヤナ州)	軸受機器	生産設備	557	330	(18,923)	-	185	1,073	97

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品等であり、建設仮勘定は含んでおりません。

2. 賃借している土地の面積を()で外書きしております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当企業グループの当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、除却等の計画については、次のとおりであります。

事業所名又は会社名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定 金額 (百万円)	資金調達 方法	完了予定年月
オイレス工業(株) 藤沢事業場 (神奈川県藤沢市)	軸受機器	建物等	3,240	自己資金	2021年11月

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	153,200,000
計	153,200,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年6月30日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	34,300,505	34,300,505	(株)東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	34,300,505	34,300,505	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2017年3月1日 (注)	2,000,000	34,300,505	-	8,585	-	9,474

(注) 自己株式の消却によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	32	19	235	121	34	17,736	18,177	-
所有株式数(単元)	-	67,764	3,144	68,789	40,471	118	161,472	341,758	124,705
所有株式数の割合(%)	-	19.83	0.92	20.13	11.84	0.03	47.25	100.00	-

- (注) 1. 自己株式2,875,509株は、「個人その他」に28,755単元及び「単元未満株式の状況」に9株を含めて記載しております。
2. 上記「金融機関」の欄には、「株式給付信託(BBT)」にかかる資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)の保有する株式が1,172単元含まれております。
3. 上記「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が24単元含まれております。
4. 上記「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義単元未満株式20株が含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
東京中小企業投資育成(株)	東京都渋谷区渋谷三丁目29番22号	2,966	9.44
(株)みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	1,200	3.82
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	969	3.09
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	847	2.70
川崎 景介	東京都大田区	829	2.64
川崎 景太	東京都大田区	721	2.29
オイレス東日本共栄会	東京都港区港南一丁目2番70号	689	2.19
(株)三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	567	1.81
オイレス従業員持株会	東京都港区港南一丁目2番70号	556	1.77
群栄化学工業(株)	群馬県高崎市宿大類町700	528	1.68
計	-	9,876	31.43

- (注) 1. 日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)847千株は、信託業務に係わる株式であります。
2. 上記のほか、自己株式2,875千株を保有しております。
3. 「第5 経理の状況」以下においては、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)の適用により、上記2及び資産管理サービス信託銀行(株)が保有する株式のうち「株式給付信託(BBT)」にかかる信託E口の保有する株式117千株の合計を自己株式として処理しております。

4. 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループから2019年11月18日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、2019年11月11日現在で以下のとおり株式を保有している旨の記載がされているものの、当社として議決権行使基準日時点における実質所有株式数の確認ができません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(株)	株券等保有割合(%)
(株)三菱UFJ銀行	東京都千代田丸の内二丁目7番1号	567,336	1.65
三菱UFJ信託銀行(株)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	752,200	2.19
三菱UFJ国際投信(株)	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号	105,200	0.31
エム・ユー投資顧問(株)	東京都千代田区神田駿河台二丁目3番地11	190,900	0.56
合 計		1,615,636	4.71

5. 野村證券株式会社から2016年4月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、2016年3月31日現在で以下のとおり株式を保有している旨の記載がされているものの、当社として議決権行使基準日時点における実質所有株式数の確認ができません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(株)	株券等保有割合(%)
野村證券(株)	東京都中央区日本橋一丁目9番1号	105,472	0.29
NOMURA INTERNATIONAL PLC	1 Angel Lane, London EC4R 3AB, UK	13,327	0.04
野村アセットマネジメント(株)	東京都中央区日本橋一丁目12番1号	1,331,040	3.67
合 計		1,449,839	3.99

6. 株式会社みずほ銀行から2017年4月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、2017年3月31日現在で以下のとおり株式を保有している旨の記載がされているものの、当社として議決権行使基準日時点における実質所有株式数の確認ができません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(株)	株券等保有割合(%)
(株)みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	1,200,505	3.50
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	141,600	0.41
アセットマネジメントOne(株)	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号	752,600	2.19
合 計		2,094,705	6.11

7. 伊藤見富法律事務所を提出者として日本バリュー・インベスターズ(株)から2018年9月18日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、2018年9月14日現在で以下のとおり株式を保有している旨の記載がされているものの、当社として議決権行使基準日時点における実質所有株式数の確認ができません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(株)	株券等保有割合(%)
日本バリュー・インベスターズ(株)	東京都千代田区丸の内一丁目8番1号	1,814,500	5.29
合 計		1,814,500	5.29

(7)【議決権の状況】
 【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,875,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,300,300	313,003	-
単元未満株式	普通株式 124,705	-	-
発行済株式総数	34,300,505	-	-
総株主の議決権	-	313,003	-

(注)1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,400株含まれております。

また、「議決権の数(個)」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数24個が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、「株式給付信託(BBT)」にかかる資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)の保有する普通株式117,200株(議決権の数1,172個)が含まれております。

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
オイレス工業株式会社	東京都港区港南 一丁目2番70号	2,875,500	-	2,875,500	8.38
計	-	2,875,500	-	2,875,500	8.38

(注)「株式給付信託(BBT)」にかかる資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)の保有する株式117,200株については、上記自己株式等の数には含めておりません。

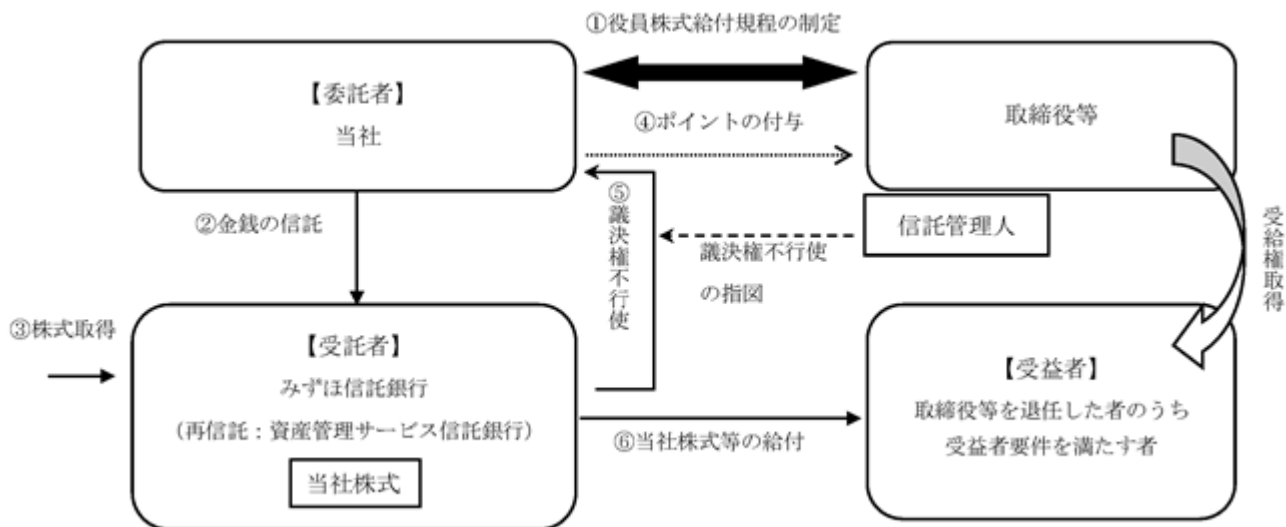
(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

当社は、2018年6月28日開催の第67回定時株主総会（以下「本株主総会」といいます。）決議に基づき、社外取締役を除く取締役及び執行役員（以下「取締役等」といいます。）を対象に中長期的な業績向上と企業価値増大への貢献意識を高めることを目的として、業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT（= Board Benefit Trust）」）（以下「本制度」といいます。）を導入しております。

1. 本制度の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託（以下、本制度に基づき設定される信託を「本信託」といいます。）を通じて取得され、取締役等に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭（以下「当社株式等」といいます。）が本信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度です。なお、取締役等が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として取締役等の退任時となります。

<参考：本制度の仕組み>



当社は、本株主総会において、本制度について決議を得て、本株主総会で承認を受けた枠組みの範囲内において、「役員株式給付規程」を制定します。

当社は、 の本株主総会決議で承認を受けた範囲内で金銭を信託します。

本信託は、 で信託された金銭を原資として当社株式を、取引市場を通じて又は当社の自己株式処分を引き受ける方法により取得します。

当社は、「役員株式給付規程」に基づき取締役等にポイントを付与します。

本信託は、当社から独立した信託管理人の指図に従い、本信託勘定内の当社株式に係る議決権を行使しないこととします。

本信託は、取締役等を退任した者のうち「役員株式給付規程」に定める受益者要件を満たした者（以下「受益者」といいます。）に対して、当該受益者に付与されたポイント数に応じた当社株式を給付します。但し、取締役等が「役員株式給付規程」に定める要件を満たす場合には、ポイントの一定割合について、当社株式の時価相当の金銭を給付します。

2. 株式給付信託（BBT）に拠出した株式の総数

119,000株

3. 株式給付信託（BBT）による受益者その他権利を受けることができる者の範囲

取締役等を退任した者のうち役員株式給付規程に定める受益者要件を満たす者

< 本信託の概要 >

名称 : 株式給付信託 (B B T)
 委託者 : 当社
 受託者 : みずほ信託銀行株式会社
 (再信託受託者 : 資産管理サービス信託銀行株式会社)
 受益者 : 取締役等を退任した者のうち役員株式給付規程に定める受益者要件を満たす者
 信託管理人 : 当社と利害関係のない第三者
 信託の種類 : 金銭信託以外の金銭の信託 (他益信託)
 信託契約日 : 2018年 8 月27日
 信託設定日 : 2018年 8 月27日
 信託の期間 : 2018年 8 月27日から信託が終了するまで
 (特定の終了期日は定めず、本制度が継続する限り信託は継続します。)

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第 7 号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	1,572	2,626,005
当期間における取得自己株式	92	122,560

(注) 当期間における取得自己株式には、2020年 6 月 1 日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買い取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	2,875,509	-	2,875,601	-

- (注) 1. 「株式給付信託(BBT)」にかかる資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)の保有する株式117千株については、上記保有自己株式数には含めておりません。
2. 当期間における保有自己株式数には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、通期における業績と今後の業績予想を踏まえ、将来の経営基盤強化のための投資と株主の皆様への利益還元等を考慮しつつ、安定的かつ継続的な配当を基本とし、30%以上の連結配当性向を目指してまいりました。今後につきましても長期的な視点から利益還元に努めてまいります。

当社の配当は、中間配当と期末配当の年2回行うこととしております。

これらの配当を決定する機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度の期末配当金につきましては、1株につき25円とさせていただきます。年間配当金はこれに中間配当金25円を加え、1株につき50円となります。

当事業年度に係る剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
2019年11月5日 取締役会決議	785	25
2020年6月29日 定時株主総会決議	785	25

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当企業グループでは、コーポレート・ガバナンスを重要な経営課題と位置づけ、市場の変化に応じた機動的な経営意思決定、権限委譲による合理的かつ健全で透明度の高い経営体制及び組織を整備するとともに、必要な施策を実施し、当企業グループの発展と企業価値の向上を図ることを基本的な考え方としております。

同時に、投資家への情報開示の重要性も認識し、経営の透明性を高めるため適時適切な情報開示に積極的に取り組んでおります。

企業統治の体制

(a) 企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

当社は監査役制度を採用しており、取締役7名（うち社外取締役2名、提出日現在）、監査役4名（うち社外監査役2名、提出日現在）による体制となっております。

取締役会は、経営上の重要な事項についての意思決定を行うとともに、取締役の業務執行に係わる経営の監督を行います。

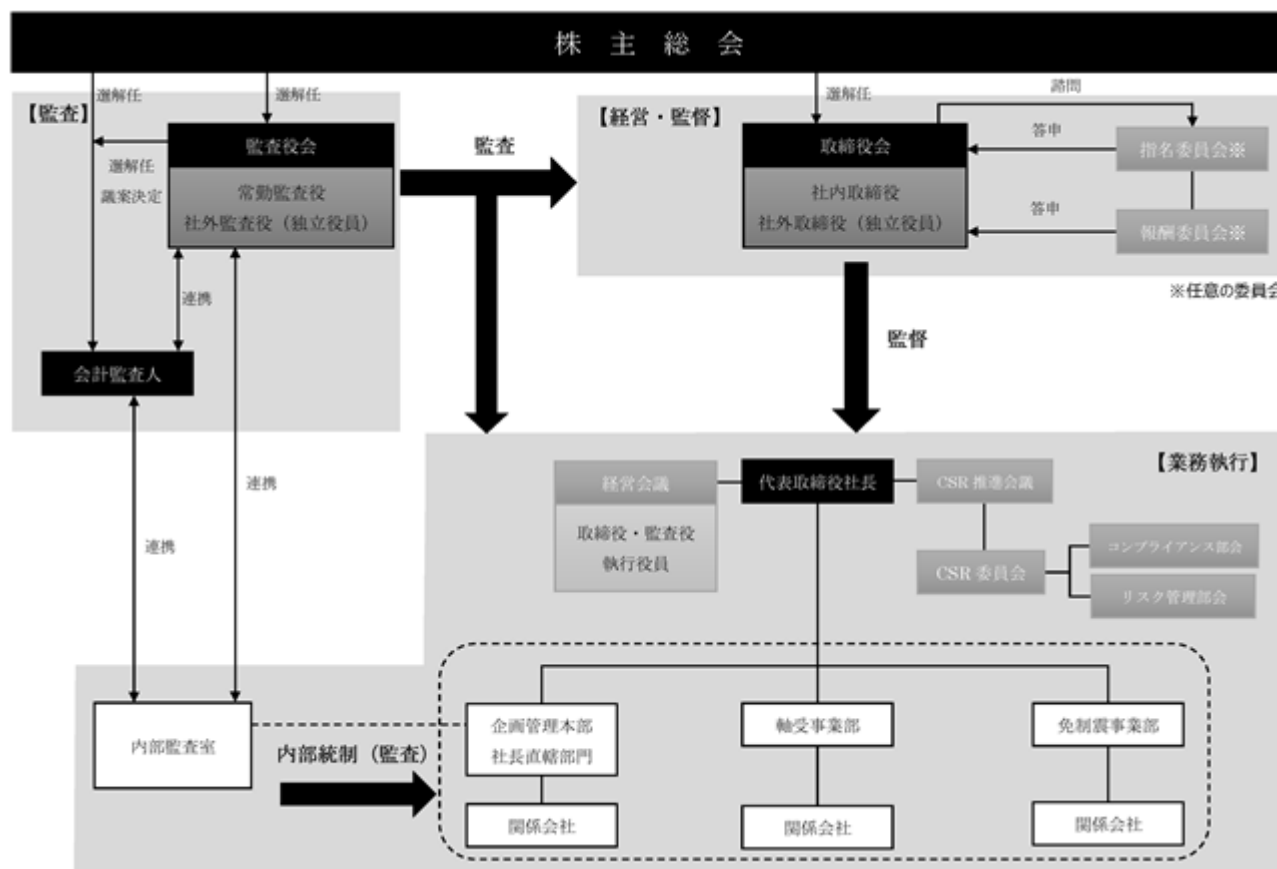
監査役会は、取締役会及び執行機能の監督を行います。また、監査役は会計監査人、内部統制を含む内部監査部門と連携を図る体制を構築しております。

取締役の指名並びに取締役及び執行役員の報酬決定については、これら意思決定プロセスの客観性、透明性、公正性を確保することを目的として、2018年10月の取締役会において、取締役会の諮問機関として、任意の指名委員会、報酬委員会を設置し、両委員会は取締役会と適切に関与しております。また、取締役会は、両委員会の適切な関与を踏まえ、これら指名、報酬の内容について決定しております。

なお、当社は、業務執行機能と監督・監視機能の区分明確化、及び経営戦略意思決定の迅速化と効率化による取締役会機能強化の観点から、2003年6月から執行役員制度を導入しており、現行の体制は、取締役兼務者を含む執行役員10名（提出日現在）で構成されております。

当社といたしましては、現在の体制が十分な執行・監査体制を有しており、当社のコーポレート・ガバナンスの向上に十分資するものと考えております。

会社の機関の模式図及び概要につきましては、以下のとおりであります。



〔取締役会〕

当社の取締役会は、代表取締役社長を議長とし、経営上の最高意思決定機関として、法令及び定款に定められた事項のほか、会社の重要な業務執行の決定、取締役及び執行役員の職務の執行の監督を行っております。

〔監査役会〕

当社は、監査役制度を採用し、監査役会を設置しております。

監査役は、取締役会や経営会議等の重要会議に出席するほか、重要な決裁書類の閲覧を行い、独立した立場から適法性、適切性といった観点からの監査を行い、会社の健全な経営と社会的信用の維持向上に努めております。

〔経営会議〕

経営会議は、会社業務の執行方針に関する実務的な協議の場として設置しており、各取締役及び社長が指名した者をもって構成し、毎月1回以上開催しております。

〔会計監査人〕

会計監査人は、有限責任監査法人トーマツを選任しており、会社法・金融商品取引法に基づく連結及び個別の財務諸表について監査を受けております。

〔指名委員会〕

取締役の指名手続きについては、独立性、客観性、透明性ある手続きを確立するため、2018年10月開催の取締役会において、独立社外取締役が過半数を占める任意の指名委員会を設置しております。指名委員会の構成員は、飯田 昌弥(代表取締役社長・指名委員会委員長)、村山 眞一郎(社外取締役)、大村 康二(社外取締役)の3名であります。

〔報酬委員会〕

取締役及び執行役員の報酬決定手続きについては、独立性、客観性、透明性ある手続きを確立するため、2018年10月開催の取締役会において、独立社外取締役が過半数を占める任意の報酬委員会を設置しております。報酬委員会の構成員は、飯田 昌弥(代表取締役社長・報酬委員会委員長)、村山 眞一郎(社外取締役)、大村 康二(社外取締役)の3名であります。

〔内部監査室〕

内部監査室は、5名(提出日現在)で構成され、各事業部門から独立した客観的な観点から部門長の業務執行等に監査及び指導を行うとともに、監査役と連携して内部統制に関連する監査及び指導を行っております。

〔CSR推進会議〕

当社は、企業の社会的責任(CSR)の推進が社会の持続可能な発展に寄与するものであり、さらには当社の企業価値向上にも寄与するという考えのもと、CSRの推進を企業活動の主軸と位置付けております。これを踏まえ、代表取締役社長を議長とする「CSR推進会議」を設置し、中長期的な企業価値向上に資するCSR課題の把握と推進を行う体制としております。

〔コンプライアンス部会〕

当社は、コンプライアンス全体を統括する組織として、CSR推進会議の傘下にある「コンプライアンス部会」のもと「オイレスグループ 企業行動憲章」及び「企業行動規範」に従ったコンプライアンスの推進、教育、研修を行っております。

〔リスク管理部会〕

リスク管理部会は、当社の事業に関する様々なリスク洗い出し、予防、リスクが発生した場合の迅速かつ的確な対応及び再発の防止のための組織として、CSR推進会議の傘下に「リスク管理部会」を設置し、活動を行っております。

(b) 内部統制システム及びリスク管理体制の整備状況

当社は、2019年5月開催の取締役会において、当企業グループの内部統制システムの基本方針を改訂し、その整備、実施に向けて全社で取り組んでおります。

1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、企業が存立を継続するためにはコンプライアンスの徹底が必要不可欠であるとの認識のもと、当社社是の一つである「Liberty & Law」を基盤とするコンプライアンス経営体制の確立に努めております。

当社は、コンプライアンス全体を統括する組織として、CSR推進会議の傘下にある「コンプライアンス部会」のもと、この部会を中心に、策定された「オイレスグループ 企業行動憲章」、「企業行動規範」及び「グループコンプライアンス規程」に従ったコンプライアンスの推進、教育、研修を行っております。

具体的には、グループ会社を対象範囲とする「オイレスグループ コンプライアンス実行の手引き」を定め、すべての役員及び従業員の日頃の業務運営の指針とし、一層公正で透明な企業風土の構築に努めております。

コンプライアンスに関する相談や不正行為等の通報のために、内部通報制度を運用する。具体的には、コンプライアンス部会事務局に設置された社内通報窓口に加え、従業員のための社外通報窓口（法律事務所）も設置し、通報者の保護を徹底します。

また、当社は、内部監査室による内部監査を通じて、業務が法令、定款及び社内規程等に準拠し適正・妥当に、かつ合理的に行われているかを調査・検証し、その結果を社長に報告しております。

2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、株主総会、取締役会をはじめとする重要な会議の意思決定に係る記録、職務権限規程に基づいて各取締役が決裁した文書等、取締役の職務の執行に係る情報を適正に記録し、法令及び「文書管理規程」等に基づき、文書取扱責任者のもとで定められた期間保存及び管理しております。

3) 当社及び当企業グループの損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、当社及び当企業グループの様々な損失の危険に対して、危険の大小や発生の可能性に応じ、事前に適切な対応策を準備する等により、損失の危険を最小限にすべく組織的に対応しております。

当社は、当社及び当企業グループにおける損失の危険を全般的に統括する組織としてリスク管理部会を設置し、担当取締役を置き、「グループリスク管理規程」及び「グループ経営危機管理規程」を定め、当社及び当企業グループのリスク管理体制を構築しております。

環境及び安全・衛生については当社環境安全衛生室が、品質については、当社品質保証室が専門的立場から監査しております。

経理関係においては、当社各部門及び当企業グループによる自立的な管理を基本とし、当社経理部門が当企業グループ全体を計数的に管理をしております。

4) 当社及び当企業グループの取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社及び当企業グループは、定例の取締役会により重要事項の決定並びに取締役の業務執行状況を監督しております。また、取締役会の機能をより強化し経営効率を向上させるため、全取締役及び社長から指名された従業員等が出席する定期的な経営会議、あるいは戦略会議などの会議体を適宜開催することにより、業務執行に関する基本的事項及び重要事項に係る検討・審議を行い、慎重かつ機動的な意思決定を行うと同時に、重要な経営テーマについて時間をかけて議論しております。

当社は、長期ビジョンのもと、中期経営計画及び年次計画を立案し、当企業グループの目標を設定しております。

当社及び当企業グループ各社における各部門においては、その目標達成に向け具体的な施策を立案し、実行しております。

なお、当社は、取締役の任期を1年とし、執行役員制により意思決定・監督機能と業務執行機能を分離しております。

5) 当社並びに当企業グループにおける業務の適正を確保するための体制

当社は、当企業グループ共通の「オイレスグループ 企業行動憲章」及び「企業行動規範」を定め、各社にコンプライアンス推進委員及び実践推進リーダーを置き、コンプライアンス部会がグループ全体のコンプライアンスを統括・推進しております。

当社は、「関係会社等管理規程」に基づき、経営企画部が各事業部企画部と連携して、当企業グループから必要な事前協議や報告を受けるなど、適切な経営管理を行っております。

当社は、当社監査役並びに内部監査室が定期的の子会社の監査を実施するとともに、当企業グループの主要な子会社については当社従業員などが監査役に就任して監査を行い、業務の適正を確保しております。

当社は、当企業グループ各社の監査役が参加する「オイレスグループ監査役会」を組織し、一体となって当企業グループにおける業務の適正を確保しております。

6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

当社は、監査役の求めに応じて、監査役の業務補助のための監査役スタッフを置き、監査役会の指揮命令に服するものとします。また、その人事、待遇、処遇については、取締役と監査役との協議に基づいて行います。

当社は、監査役スタッフの人事異動、人事評価、懲戒に関しては、監査役会の事前の同意を得るものとしております。

7) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制

取締役は、当社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があるとき、取締役及び従業員による違法又は不正な行為を発見したときは、直ちに監査役に報告することにしております。

監査役は、取締役会の他、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、経営会議などの重要な会議に出席することができるとともに、主要な決裁書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて取締役又は従業員にその説明を求める体制としております。

- 8) 当企業グループの取締役・監査役等及び使用人から報告を受けた者が当社監査役に報告をするための体制
当企業グループの役員・従業員は、当社監査役から業務執行に関する事項について報告を求められたときは、速やかに適切な報告を行っております。
当企業グループの役員・従業員は、コンプライアンス違反について、発見次第直ちにコンプライアンス部会の事務局へ通報することとなっており、当該事務局を通して当社監査役に報告がなされております。
当社は、通報した当企業グループの役員・従業員に対し、当該通報をしたことを理由として不利益な取扱いをすることを禁止し、報告者の保護を図るとともに、当企業グループの役職員に周知徹底しております。
- 9) その他監査役による監査が実効的に行われることを確保するための体制
当社及び当企業グループは、当企業グループ各部門の監査役監査に対する理解を深め、監査役監査の環境を整備するよう努めております。
当社社長は、相互の意思疎通を図るため、監査役会と定期的な意見交換会を開催します。また、会計監査人についても定期的な意見交換会を開催します。
監査役は、監査役監査を実効的に行うために、会計監査人からは会計監査内容について説明を、また、内部監査室から内部監査の報告を受けるなど、必要な情報交換を行うことにより、密接な連携を確保しております。
当社は、監査役がその職務について、当社に対して会社法第388条に基づく費用の前払い等の請求をしたときは、担当部署において審議のうえ、当該請求に係る費用又は債務が当該監査役の職務の執行に必要ないと認められた場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理しております。
- 10) 反社会的勢力排除に向けた基本的考え方
当企業グループの企業行動憲章において、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体と一切関係を持たず、断固として対決することを定めております。
当企業グループの役員及び従業員に対し、コンプライアンス実行の手引きを配付し、反社会的勢力等との関係排除を含めたオイレスグループ企業行動憲章の周知徹底を図っております。なお、警察及び特殊暴力防止対策協議会等の関係当局との連携を図り、企業防衛に関する必要な情報収集を行っております。

責任限定契約の概要

当社は、適任者を招聘、登用し、その期待される役割を十分に発揮できるため、社外取締役及び社外監査役との間に責任限定契約を締結することができる旨を定款に定めており、法令が規定する損害賠償責任の限度額を上限として、各社外取締役及び各社外監査役との間で損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

取締役選任の決議要件

当社は、取締役選任の決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が株主総会に出席して、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

取締役の任期

当社は、取締役の任期について、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上で行う旨定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議できる事項

(a) 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって同条第1項に定める市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を目的とするものです。

(b) 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対して、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

会社の支配に関する基本方針

(a) 基本方針の内容

当社取締役会は、特定の者による当社株式等の大規模買付行為(以下「大規模買付行為」といいます。)があったとしても、当企業グループの企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定すべきではなく、また、大規模買付行為を受け入れるかどうかを最終的に判断するのは株主の皆様であるものと考えております。

もっとも、当社は、企業価値ひいては株主共同の利益に資さない大規模買付行為を行う者は、例外的に当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による大規模買付行為に対しては、必要かつ相当な措置をとることにより、当企業グループの企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えております。

(b) 不適切な支配防止のための取組み及び取締役会の判断

1) 企業価値向上策

当企業グループは、「オイルレスベアリングの総合メーカーとして世界のリーダーとなり、技術で社会に貢献する」という経営理念の下、独創的な研究開発によって摩擦・摩耗・潤滑というコア技術を極め、これをグローバルに展開し、それにより社会に貢献することを今日の経営の基本としております。

さらに、当企業グループは経営理念の実現のため、中期経営計画と年次経営計画を連動させ、グローバル市場でのオイルスブランドの確立に向け、取り組んでおります。

2) 当社株式の大規模買付行為への対応方針

当社は、2006年6月29日開催の第55回定時株主総会において、株主の皆様のご承認を得て、事前警告型の当社株式の大規模買付行為に関する対応策を導入いたしました(2018年6月28日開催の当社第67回定時株主総会の決議による変更を含み、以下「本方針」といいます。)。本方針は、大規模買付行為を行う者(以下「大規模買付者」といいます。))があらかじめ当社が定めた大規模買付ルールを遵守した場合には、原則として大規模買付行為に対する対抗措置をとらず、大規模買付者が当該ルールを遵守しなかった場合には、当社取締役会は、株主共同の利益を守ることを目的として、新株予約権の発行等の対抗措置をとり、大規模買付行為に対抗することができるというものです。

また、導入後当社株主総会において本方針を廃止する旨の決議が行われた場合、又は当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により本方針を廃止する旨の決議が行われた場合には、本方針はその時点で廃止することができます。

当社は、当社の議決権割合が20%以上となる当社株式の買付行為、又は当社の他の株主との間における、当該他の株主が共同保有者に該当するに至るような合意その他の行為、若しくは、当該他の株主との間に一方が他方を実質的に支配し若しくは共同ないし協調して行動する関係を樹立する行為といった当社株式に対する大規模買付行為が行われた場合でも、これを受け入れるかどうかを最終的に判断するのは株主の皆様であると考えております。しかしながら、当社は、別途定めたルールを遵守しない場合、あるいは遵守した場合であっても、例外措置に該当する場合は、経営陣から独立した委員で構成される特別委員会の勧告を受け、対抗措置を発動することがあります。

なお、対抗措置を発動する場合には、新株予約権の無償割当等を行いますが、実際に新株予約権の無償割当を行う場合には、議決権割合が一定割合以上の特定株主グループに属さないことを新株予約権の行使条件とするなど、対抗措置としての効果を勘案した行使期間及びその他の行使条件を設けることがあります。

また、当社は当該取組みが前項(a)に記載のとおり、基本方針に則ったものであり、かつ合理性のあるものであることを示すため、

(イ) 本方針が適正に運用され、取締役会によって恣意的な判断がなされることを防止するために、当社の業務執行を行う経営陣から独立している委員で構成されている特別委員会を設置し、特別委員会の勧告を義務づけること。

(ロ) 当社取締役会が具体的な対抗措置を講じたとしても、対抗措置発動の必要がなくなったと判断したときは、対抗措置の発動の停止又は変更ができること。

(ハ) 本方針の有効期間は、2021年6月開催予定の当社定時株主総会の終結の時までの3年間とし、本方針の継続については別途株主総会の承認を経ること。

等の措置を講じております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性11名 女性 0名 (役員のうち女性の比率0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役 会長	岡山 俊雄	1952年8月25日	1975年4月 当社入社 2000年4月 当社軸受カンパニー 営業一部長 2003年6月 当社執行役員 2005年4月 当社事業本部 第一事業部長 2005年6月 当社上席執行役員 2006年6月 当社取締役 2008年6月 当社常務執行役員 2009年6月 当社企画管理本部長 2011年6月 当社代表取締役社長 社長執行役員 2017年6月 当社代表取締役会長 2020年6月 当社取締役会長(現任)	(注)3	398
代表取締役 社長 社長執行役員	飯田 昌弥	1957年2月24日	1979年4月 当社入社 2003年12月 当社生産事業部 滋賀工場長 2006年6月 当社執行役員 2006年10月 当社生産事業部 副事業部長 2009年6月 当社軸受事業部 副事業部長 2010年6月 当社上席執行役員 2011年6月 当社取締役 2011年7月 当社軸受第一事業部長 2013年4月 当社企画管理本部 副本部長 2014年1月 兼 当社生産革新センター長 2015年4月 当社企画管理本部長 2016年6月 当社常務執行役員 2017年6月 当社代表取締役社長 社長執行役員(現任)	(注)3	252
取締役 常務執行役員 軸受事業部長	須田 博	1959年3月26日	1982年4月 当社入社 2007年3月 Oiles America Corporation 社長 2010年6月 当社執行役員 2014年4月 当社上席執行役員 軸受第二事業部長 2014年6月 当社取締役(現任) 2016年4月 当社上席執行役員 軸受事業部長 2018年6月 当社常務執行役員 軸受事業部長(現任)	(注)3	157
取締役 上席執行役員 免制震事業部長	田邊 和治	1962年9月19日	1986年4月 当社入社 1999年6月 Oiles Tribomet GmbH (現 Oiles Deutschland GmbH) 社長 2008年6月 当社企画本部 経営企画部長 2010年4月 当社生産事業部 滋賀工場長 2011年6月 当社執行役員 2013年5月 オイレスE C O(株) 代表取締役社長 2015年6月 当社上席執行役員(現任) 2016年6月 当社取締役(現任) 2017年4月 当社免制震事業部長(現任)	(注)3	166
取締役 上席執行役員 企画管理本部長	宮崎 聡	1960年11月20日	2013年7月 当社入社 経理部長 2015年4月 当社企画管理本部 副本部長 兼 経理部長 2015年6月 当社執行役員 企画管理本部 副本部長 兼 経理部長 2017年6月 当社上席執行役員 企画管理本部長(現任) 2018年6月 当社取締役(現任)	(注)3	60

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役	村山 眞一郎	1953年2月4日	1976年4月 日立金属㈱入社 2008年4月 同社事業役員 安来工場長 兼 特殊鋼カンパニー バイスプレジデント 2009年4月 同社事業役員 特殊鋼カンパニープレジデント 2010年4月 同社執行役常務 営業センター長 2015年4月 日立金属商事㈱ 顧問(2016年3月退任) 2015年6月 当社社外取締役(現任)	(注)3	32
取締役	大村 康二	1954年2月14日	1979年4月 三井石油化学工業㈱(現 三井化学㈱)入社 2005年6月 同社執行役員 基礎化学品企画管理部長 兼 原料購買部長 2009年6月 同社常務取締役 経営企画部長、中国総代表 2011年6月 同社専務取締役 経営企画/ニュービジネス推 進/レスボンシブル・ケア担当 2013年4月 同社代表取締役副社長 執行役員 生産・技術本部長、SCM/物流/購買担当 2016年6月 同社副社長執行役員 基盤素材事業本部長 2018年4月 同社社長特別補佐 ベトナム・プロジェクト担当 2019年4月 同社特別参与 2020年4月 同社参与(2020年6月退任) 2020年6月 当社社外取締役(現任)	(注)3	10
常勤監査役	横山 勝	1958年11月12日	1982年4月 当社入社 2009年6月 当社企画管理本部 総務部長 2018年1月 当社企画管理本部 部長 2018年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)4	59
常勤監査役	溝口 勝広	1960年8月13日	1983年4月 当社入社 2009年10月 当社軸受企画部 専門部長 2011年4月 当社軸受第一事業部 営業部 東京営業所長 2012年4月 当社企画管理本部 法務部長 2019年4月 当社企画管理本部 法務部 専門部長 2020年1月 当社企画管理本部 法務部 専門部長 兼 内部監査室 専門部長 2020年6月 当社常勤監査役(現任)	(注)6	8
監査役	君島 得宏	1951年6月3日	1975年4月 キヤノン㈱入社 2003年4月 キヤノンシステムアンドサポート㈱ 執行役員 2006年1月 同社常務執行役員 2009年3月 同社取締役 常務執行役員 2011年4月 同社取締役 専務執行役員 2013年3月 同社常勤監査役 2015年4月 同社顧問 2015年6月 当社社外監査役(現任) 2017年10月 ㈱アーキテクト監査役(2019年6月退任)	(注)5	38
監査役	前田 達宏	1961年4月21日	1989年10月 サンワ・等松青木監査法人 (現有限責任監査法人トーマツ)入所(2006年12月退所) 1994年8月 公認会計士登録 2007年1月 前田達宏公認会計士事務所代表(現任) 2007年2月 税理士登録 2015年7月 日本ビューホテル㈱ 社外監査役(2019年9月退任) 2018年6月 当社社外監査役(現任)	(注)4	6
計					1,190

- (注) 1. 取締役 村山 眞一郎及び大村 康二は、会社法第2条第15号及び会社法施行規則第2条第3項第5号に定める「社外取締役」であります。
2. 監査役 君島得宏及び前田 達宏は、会社法第2条第16号及び会社法施行規則第2条第3項第5号に定める「社外監査役」であります。
3. 2020年6月29日開催の定時株主総会終結の時から1年間
4. 2018年6月28日開催の定時株主総会終結の時から4年間
5. 2019年6月27日開催の定時株主総会終結の時から4年間

- 6 . 2020年 6月29日開催の定時株主総会終結の時から 4年間
 7 . 当社は、法令に定める監査役員の数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第 3項に定める補欠監査役 1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (百株)
田中 耕司	1951年12月21日	1989年 7月 阿部税務会計事務所入所 1995年11月 山本経営会計事務所入所 2001年 3月 田中税務会計事務所所長(現任) 2015年 9月 榊田中会計代表取締役(現任)	-

社外役員の状況

当社の社外取締役は 2名、社外監査役は 2名であります。

社外取締役村山 眞一郎氏は、会社役員として経営を担った豊富な知識・経験及び営業部門を通して培われた幅広い知見から、当社の経営に有用な意見・助言を行うという社外取締役の職責を適切に果たしております。また、同氏と当社との間には、人的関係又は取引関係その他特別な利害関係はありません。

社外取締役大村 康二氏は、会社役員として経営を担った豊富な知識・経験から、当社の経営に有用な意見・助言を行うという社外取締役の職責を適切に果たすことが期待できることから選任しております。また、同氏と当社との間には、人的関係又は取引関係その他特別な利害関係はありません。

社外監査役君島 得宏氏は、会社役員として経営を担い、かつ、監査役として培った豊富な知識・経験から、客観的かつ公正な立場から当社の経営を監視するという社外監査役の職責を適切に果たしております。また、同氏と当社との間には、人的関係又は取引関係その他特別な利害関係はありません。

社外監査役前田 達宏氏は公認会計士として企業会計の実務に携わっており、企業会計に関する豊富な経験と高度の知識を有しているおり、客観的かつ公正な立場から当社の経営を監視するという社外監査役の職責を適切に果たしております。また、同氏と当社との間には、人的関係又は取引関係その他特別な利害関係はありません。

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針を定めておりますが、一般株主と利益相反の生じるおそれがないことを基本的な考え方として選任しております。また、この 4名は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届出を行っており、社外取締役村山 眞一郎氏、社外監査役君島 得宏氏及び前田 達宏氏は、当社株式の大規模買付行為に関する対応策における特別委員会の委員、社外取締役村山 眞一郎氏、大村 康二氏は、取締役会の諮問機関として任意の指名委員会、報酬委員会の委員も兼務しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役及び社外監査役は、取締役会その他重要会議に出席並びに重要文書の閲覧等厳正な監査を実施し、取締役の意思決定の過程及び取締役の業務執行状況について監査しております。また、内部監査室や会計監査人とも相互に連携、情報交換をし、監督及び監査の充実に努めております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社は、監査役制度を採用し、監査役会を設置しております。構成は、監査役4名、内訳は、常勤監査役2名と社外監査役2名となっています。なお、社外監査役前田 達宏は、公認会計士及び税理士の資格を有しております。また、社外監査役2名は、(株)東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ています。

当社における監査の方針、監査計画、監査の方法、監査業務の分担等につきましては、監査役会において決議し、策定しております。

(a) 監査役的活動状況

各監査役は、監査の方針及び業務の分担等に従い、取締役会の他、重要な意思決定の過程及び職務の執行状況を把握するため、経営会議その他の重要な会議に出席し、必要があると認めたときは意見を述べています。また、会計監査人、内部監査室及び関係会社監査役と定期的な会合をもち、緊密な連携を保ち実効的で効率的な監査を実施しています。更に代表取締役と定期的に会合をもち、会社に対処すべき課題、監査上の重要課題等について意見交換をし、相互認識を深めるようにしています。

常勤監査役は、常勤者としての特性を踏まえ、年間の監査計画に基づき、当事業年度においては、社内37部署及び国内外の関係会社12社に対する往査を実施し、企業グループ中の情報の収集に積極的に努め、かつ、内部統制システムの構築・運用の状況を日常的に監視し検証しています。なお、常勤監査役は、職務遂行上知り得た情報を、他の監査役と共用するように努めています。

(b) 監査役会の開催頻度、出席状況

当社は、監査役会を原則月1回開催しており、議長は常勤監査役池永 雅良が務めています。なお、当事業年度は14回開催しており、個々の監査役の出席状況は、次のとおりであります。

氏 名	当事業年度の監査役会出席率
池 永 雅 良	100% (14/14回)
横 山 勝	93% (13/14回)
君 島 得 宏	100% (14/14回)
前 田 達 宏	100% (14/14回)

(c) 監査役会における検討事項

- ・ 監査の方針、監査計画、監査の方法、監査業務の分担
- ・ 監査報告書の作成
- ・ 監査役候補者の選定基準制定、見直し
- ・ 会計監査人の選任及び解任並びに不再任
- ・ 会計監査人の報酬等に対する同意
- ・ 往査調書の報告
- ・ 常勤監査役職務執行状況報告

内部監査の状況

当社における内部監査は、内部監査室に内部監査責任者1名、管理者1名と担当者3名(提出日現在)を置き、当社全部門及び当企業グループ各社に対し内部統制評価を含めた内部監査を定期的を実施しております。また、内部監査責任者は、監査役会との連携を保ちながら意見交換を行っております。なお、内部監査責任者、監査役及び会計監査人は定期的に情報交換を行っております。

会計監査の状況

(a) 監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

(b) 継続監査期間

4年

(c) 業務を執行した公認会計士

芝田 雅也

加藤 博久

(d) 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士7名、その他5名であります。

(e) 監査法人の選定方針と理由

監査役会は、会計監査人の適正な監査の確保のため、会計監査人を選定するための基準を定めており、以下の項目を評価して会計監査人の選定を行っております。

- ・ 監査法人の品質管理体制、独立性など
- ・ 監査の実施体制等（監査計画、監査チームの編成の適切性など）
- ・ 監査報酬見積額（見積額の適切性）

なお、監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合又は監査の適正性をより高めるためにその必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

(f) 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役会は、会計監査人の適正な監査の確保のため、会計監査人を評価するための基準を定めており、以下の項目等々を評価した結果、監査は適切に実施されていると判断しております。

- ・ 監査法人の品質管理体制
- ・ 監査チームの独立性、メンバー構成
- ・ 監査報酬等の水準の適切性、監査の有効性と効率性への配慮
- ・ 監査役等とのコミュニケーション
- ・ グループ監査におけるグループ会社の監査人とのコミュニケーション

(g) 監査法人の異動

該当事項はありません。

監査報酬の内容等

(a) 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	38	-	38	4
連結子会社	-	-	-	-
計	38	-	38	4

- (注) 1. 当社において、前連結会計年度に係る監査証明業務に基づく報酬の額以外に、前々連結会計年度に係る追加報酬として前連結会計年度に支出した額が2百万円あります。
2. 当社において、当連結会計年度に係る監査証明業務に基づく報酬の額以外に、前連結会計年度に係る追加報酬として当連結会計年度に支出した額が6百万円あります。
3. 当連結会計年度の提出会社における非監査業務の内容は、企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」適用の対応に関する助言・指導等であります。

(b) 監査公認会計士等と同一のネットワーク(Deloitte Touche Tohmatsu)に属する組織に対する報酬(aを除く)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	-	-	-	-
連結子会社	47	31	44	20
計	47	31	44	20

- (注) 連結子会社における非監査業務の内容は、主に税務関連業務、移転価格対応業務であります。

(c) その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

(d) 監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案したうえで決定しております。

(e) 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積の算出根拠等について必要な検証を行い、会計監査人の報酬等の額が適切であると判断をしたためであります。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役の報酬は、固定報酬、賞与、業績連動型株式報酬制度で構成しております。固定報酬は、本人の能力、計画達成に向けての意欲と関与の程度、成果、業績に対する貢献度合、今後担うべき役割等を総合的に勘案して決定しております。賞与は各連結会計年度の業績を反映するという観点から、親会社株主に帰属する当期純利益を主な指標として用いたうえで、職責と成果を反映させた体系としております。当期における親会社株主に帰属する当期純利益の目標は2,830百万円、実績は3,432百万円となりました。なお、取締役の報酬のうち固定報酬、賞与については2014年6月27日開催の第63回定時株主総会において、年額350百万円以内（ただし、使用人分給とは含まない。）とご決議いただいております。

取締役の固定報酬、賞与の額又はその算定方法の方針の決定は、報酬委員会の答申を踏まえて、取締役会決議によっております。

取締役の固定報酬、賞与の決定に関与する任意の委員会である報酬委員会は、2018年10月開催の取締役会にて設置が承認されており、委員3名以上、その過半数が独立社外取締役で構成されます。なお、報酬委員会委員長は代表取締役社長となります。報酬委員会は、取締役会の諮問を受けて取締役の報酬等について審議し、その妥当性について取締役会に答申します。

当事業年度における取締役の報酬額の決定過程における取締役会及び報酬委員会の活動については、固定報酬に関しては、2019年5月開催の取締役会において代表取締役社長が細目を決定することを承認し、取締役の賞与に関しては、報酬委員会にて内容を協議した答申を受けて、2020年5月開催の取締役会において決定しております。

業績連動型株式報酬制度については、2018年6月28日開催の第67回定時株主総会の決議にもとづき、上記の取締役の報酬額とは別枠として、取締役（社外取締役を除く。）及び執行役員を対象に、中長期的な業績向上と企業価値増大への貢献意識を高めることを目的として「株式給付信託（BBT（=Board Benefit Trust））」を導入しております。当該制度において拠出する取締役分（社外取締役を除く。）としての資金の上限は、2018年6月28日開催の第67回定時株主総会において、2021年3月末日で終了する事業年度までの3事業年度を対象に210百万円以内、以降3事業年度ごとに240百万円以内と決議いただいております。

業績連動型株式報酬導入制度に係る指標は、中長期的な業績向上に資するという観点から中期経営計画で定めた連結営業利益としております。本制度に関する株式報酬の決定方法は、当社が定める役員株式給付規程に従って、事業年度ごとに役位と指標達成度等を勘案して定まるポイントが対象者に付与されるというものです。また、対象者が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として退任時となります。当期における業績連動報酬に係る指標（中期経営計画で定めた連結営業利益）の目標は6,900百万円、実績は4,749百万円となりました。

監査役の報酬については2006年6月29日開催の第55回定時株主総会において、年額70百万円以内とご決議いただいております。また、監査役の報酬については監査役の協議により決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額（百万円）			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役（社外取締役を除く。）	251	164	86	-	6
監査役（社外監査役を除く。）	42	31	10	-	2
社外役員	35	30	5	-	4

(注) 取締役の業績連動報酬の額は賞与及び当事業年度に計上した役員株式給付引当金繰入額であり、監査役の業績連動報酬の額は賞与であります。

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

総額（百万円）	対象となる役員の員数（人）	内容
43	3	事業部長等としての給与であります。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式とは専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする株式であり、それ以外を純投資目的以外の目的である投資株式と区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

(a) 保有方針及び保有の合理性を検証する方法、個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、政策保有株式として上場会社の株式を保有する場合、中長期的な視点から、取引関係、協業関係の構築、維持強化に繋がり、かつ、保有することで当社の企業価値向上が見込める銘柄にします。

また取締役会は、毎年、政策保有株式の保有合理性について、投資先企業との円滑かつ良好な取引関係、協業関係の維持や確保など事業戦略上の定性的観点、及び配当収益その他の中長期的な経済合理性等の定量的観点を踏まえ、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等を具体的に精査し保有の適否を個別銘柄ごとに検証します。

上記の方針を踏まえ、2018年11月開催の取締役会において政策保有株式全銘柄の検証をおこない、保有意義が十分に認められない銘柄については、売却を行うこととしました。また、2019年11月開催の取締役会において、いずれも保有が適切であることを確認しております。

(b) 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	8	483
非上場株式以外の株式	20	4,077

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	-	-	-

(注) 銘柄数に株式分割で増加した銘柄は含めておりません。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	-	-

(c) 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、保有の合理性を検証した方法及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額(百万円)	貸借対照表計上額(百万円)		
ショーボンドホールディングス(株)	294,000	147,000	構造機器事業において取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や当社への営業協力度合、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。株式数の増加は株式分割によるものです。	有
	1,270	1,086		
日本工営(株)	191,500	191,500	軸受機器事業・構造機器事業で取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や当社への営業協力度合、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	562	448		
みずほリース(株) (注2)	153,100	153,100	金融・財務取引関係の維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、金融取引の内容、構造機器事業への営業協力度合、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	322	400		
住友不動産(株)	120,000	120,000	構造機器事業において取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や当社への営業協力度合、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	316	550		
ニッタ(株)	141,300	141,300	構造機器事業において取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や仕入先としての重要性、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	298	508		
バンドー化学(株)	321,500	321,500	構造機器事業において取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や仕入先としての重要性、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	202	341		
日東工器(株)	115,000	115,000	発行会社との協力関係の維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	196	251		
群栄化学工業(株)	71,500	71,500	軸受機器事業で取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や販売・仕入両面での取引関係、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	175	184		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、保有の合理性を検証した方法及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額(百万円)	貸借対照表計上額(百万円)		
和椿科技(股)有限公司	4,295,111	4,295,111	軸受機器事業で取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や当社海外戦略における重要性、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	無
	173	295		
(株)川金ホールディングス	542,111	542,111	構造機器事業において取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や販売・仕入両面での取引関係、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	136	219		
中央発條(株)	36,901	36,901	建築機器事業で取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や当社生産戦略における重要性、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	95	109		
(株)ダイセル	109,000	109,000	発行会社グループとは軸受機器事業で取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や仕入先としての重要性、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	86	131		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	163,790	163,790	金融・財務取引関係の維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、金融取引の内容、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	66	90		
(株)みずほフィナンシャルグループ	383,221	383,221	金融・財務取引関係の維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、金融取引の内容、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	47	65		
三京化成(株)	16,800	16,800	軸受機器事業で取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や仕入先としての重要性、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	39	46		
日精樹脂工業(株)	33,000	33,000	軸受機器事業で取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や販売・設備関連での取引関係、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	30	29		
第一生命ホールディングス(株)	18,900	18,900	金融・財務取引関係の維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、金融取引の内容、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	24	29		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、保有の合理性を検証した方法及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額(百万円)	貸借対照表計上額(百万円)		
(株)横河ブリッジホールディングス	9,900	9,900	構造機器事業において取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	19	18		
東洋証券(株)	97,000	97,000	金融・財務取引関係の維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、金融取引の内容、配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	有
	12	13		
川田テクノジーズ(株)	400	400	構造機器事業において取引・協業関係にあり、関係維持強化を目的に保有しています。保有の合理性については、取引量や配当等の便益と保有コスト等を比較検証しています。	無
	2	3		

(注) 1. 秘密保持の観点から政策保有株式の定量的な保有効果は記載しておりません。

2. 興銀リース(株)は、2019年10月にみずほリース(株)に商号変更しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数(銘柄)	貸借対照表計上額の合計額(百万円)	銘柄数(銘柄)	貸借対照表計上額の合計額(百万円)
非上場株式以外の株式	1	165	1	236

区分	当事業年度		
	受取配当金の合計額(百万円)	売却損益の合計額(百万円)	評価損益の合計額(百万円)
非上場株式以外の株式	1	14	121

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の連結財務諸表及び第69期事業年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。また、同機構の行うセミナー等にも参加しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,226	21,679
受取手形及び売掛金	¹ 19,217	18,207
有価証券	1,499	999
商品及び製品	3,990	3,800
仕掛品	3,161	3,283
原材料及び貯蔵品	2,869	2,723
その他	1,460	838
貸倒引当金	56	45
流動資産合計	50,369	51,486
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,435	9,909
機械及び装置(純額)	² 5,280	² 5,344
工具、器具及び備品(純額)	1,304	1,353
土地	2,914	2,915
リース資産(純額)	347	31
建設仮勘定	835	968
その他(純額)	80	296
有形固定資産合計	³ 20,199	³ 20,819
無形固定資産		
その他	549	388
無形固定資産合計	549	388
投資その他の資産		
投資有価証券	5,951	5,095
長期貸付金	0	-
長期預金	⁴ 20	⁴ 20
繰延税金資産	252	356
退職給付に係る資産	125	126
その他	1,862	1,609
貸倒引当金	14	14
投資その他の資産合計	8,197	7,192
固定資産合計	28,946	28,400
資産合計	79,315	79,887

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,466,654	45,839
1年内返済予定の長期借入金	-	545
リース債務	55	86
未払費用	2,067	1,983
未払法人税等	223	858
未払消費税等	105	541
賞与引当金	1,027	1,074
役員賞与引当金	110	109
株主優待引当金	80	130
その他	1,553	908
流動負債合計	11,877	12,077
固定負債		
長期借入金	6,000	5,455
リース債務	55	151
繰延税金負債	253	98
役員退職慰労引当金	55	59
役員株式給付引当金	40	76
退職給付に係る負債	669	778
資産除去債務	41	41
その他	515	505
固定負債合計	7,631	7,167
負債合計	19,509	19,245
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,585	8,585
資本剰余金	9,728	9,728
利益剰余金	43,897	45,758
自己株式	5,412	5,411
株主資本合計	56,797	58,659
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,615	987
為替換算調整勘定	653	248
退職給付に係る調整累計額	266	374
その他の包括利益累計額合計	2,003	860
非支配株主持分	1,005	1,121
純資産合計	59,806	60,642
負債純資産合計	79,315	79,887

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	61,360	60,165
売上原価	40,101	40,000
売上総利益	21,259	20,165
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	128	100
荷造運搬費	1,502	1,321
報酬及び給料手当	6,444	6,294
賞与引当金繰入額	494	539
役員賞与引当金繰入額	110	108
退職給付費用	417	349
役員退職慰労引当金繰入額	8	11
役員株式給付引当金繰入額	40	42
福利厚生費	1,623	1,445
旅費及び交通費	563	450
通信費	244	249
消耗品費	377	430
交際費	80	77
賃借料	726	686
減価償却費	724	693
支払手数料	753	739
株主優待引当金繰入額	98	125
貸倒引当金繰入額	12	19
その他	1,877	1,729
販売費及び一般管理費合計	16,230	15,416
営業利益	5,028	4,749
営業外収益		
受取利息	108	98
受取配当金	128	134
受取保険金	70	86
デリバティブ評価益	8	-
その他	145	169
営業外収益合計	463	489
営業外費用		
支払利息	25	21
売上割引	17	20
為替差損	128	31
デリバティブ評価損	-	78
支払手数料	65	0
その他	6	13
営業外費用合計	244	166
経常利益	5,247	5,072

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
特別利益		
投資有価証券売却益	2	14
特別利益合計	2	14
特別損失		
固定資産処分損	2 92	2 195
減損損失	3 121	-
投資有価証券評価損	-	0
特別損失合計	214	196
税金等調整前当期純利益	5,035	4,890
法人税、住民税及び事業税	1,080	1,320
法人税等調整額	99	43
法人税等合計	1,179	1,363
当期純利益	3,855	3,526
非支配株主に帰属する当期純利益	117	94
親会社株主に帰属する当期純利益	3,738	3,432

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純利益	3,855	3,526
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	560	628
為替換算調整勘定	823	349
退職給付に係る調整額	15	108
その他の包括利益合計	1,367	1,086
包括利益	2,487	2,439
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,388	2,289
非支配株主に係る包括利益	99	150

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	8,585	9,615	41,726	5,449	54,478
当期変動額					
剰余金の配当			1,567		1,567
親会社株主に帰属する当期純利益			3,738		3,738
自己株式の取得				281	281
自己株式の処分		64		317	381
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		48			48
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	112	2,170	36	2,318
当期末残高	8,585	9,728	43,897	5,412	56,797

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	2,175	1,460	281	3,353	1,007	58,839
当期変動額						
剰余金の配当						1,567
親会社株主に帰属する当期純利益						3,738
自己株式の取得						281
自己株式の処分						381
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						48
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	559	806	15	1,350	1	1,351
当期変動額合計	559	806	15	1,350	1	967
当期末残高	1,615	653	266	2,003	1,005	59,806

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	8,585	9,728	43,897	5,412	56,797
当期変動額					
剰余金の配当			1,571		1,571
親会社株主に帰属する当期純利益			3,432		3,432
自己株式の取得				2	2
自己株式の処分				4	4
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	1,860	1	1,862
当期末残高	8,585	9,728	45,758	5,411	58,659

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	1,615	653	266	2,003	1,005	59,806
当期変動額						
剰余金の配当						1,571
親会社株主に帰属する当期純利益						3,432
自己株式の取得						2
自己株式の処分						4
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	628	405	108	1,142	116	1,026
当期変動額合計	628	405	108	1,142	116	835
当期末残高	987	248	374	860	1,121	60,642

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,035	4,890
減価償却費	2,709	2,857
減損損失	121	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	88	47
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	1	4
賞与引当金の増減額(は減少)	58	49
役員賞与引当金の増減額(は減少)	6	0
株主優待引当金の増減額(は減少)	35	50
役員株式給付引当金の増減額(は減少)	40	35
貸倒引当金の増減額(は減少)	7	8
受取利息及び受取配当金	237	233
支払利息	25	21
固定資産処分損益(は益)	92	195
投資有価証券売却及び評価損益(は益)	2	14
売上債権の増減額(は増加)	886	895
たな卸資産の増減額(は増加)	1,827	131
仕入債務の増減額(は減少)	275	759
未払費用の増減額(は減少)	31	223
その他	2	798
小計	5,391	8,643
利息及び配当金の受取額	200	249
利息の支払額	21	21
法人税等の支払額	1,708	577
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,861	8,292
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,138	1,475
定期預金の払戻による収入	959	1,424
有形固定資産の取得による支出	5,094	3,743
有形固定資産の売却による収入	25	19
無形固定資産の取得による支出	138	33
投資有価証券の取得による支出	8	8
投資有価証券の売却による収入	6	18
貸付けによる支出	0	-
貸付金の回収による収入	1	1
保険積立金の積立による支出	194	179
保険積立金の払戻による収入	294	440
その他	7	12
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,295	3,549
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	6,000	-
配当金の支払額	1,566	1,570
非支配株主への配当金の支払額	32	34
自己株式の取得による支出	281	2
自己株式の処分による収入	361	-
リース債務の返済による支出	148	137
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,332	1,744
現金及び現金同等物に係る換算差額	246	25
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,651	2,972
現金及び現金同等物の期首残高	16,208	18,860
現金及び現金同等物の期末残高	18,860	21,832

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社は18社であります。

なお、連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、記載を省略しております。

2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

Oiles America Corporation、Oiles Deutschland GmbH、Oiles (Thailand) Company Limited、Oiles Czech Manufacturing s.r.o.、Oiles France SAS、上海自潤軸承有限公司、自潤軸承(蘇州)有限公司、甌依斯貿易(上海)有限公司、Oiles Brasil Eireliの決算日は12月31日であります。Oiles India Private Limitedの決算日は3月31日であります。

なお、連結決算日との差異にかかる連結会社間の重要な取引については、調整しております。

3. 会計方針に関する事項

連結子会社の会計処理基準は、以下の項目を含め連結財務諸表提出会社が採用する会計方針とおおむね同一の会計方針を採用しております。

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

(a) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

(b) その他有価証券

時価のあるもの

市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

(a) 商品及び製品

総平均法による原価法

ただし、個別注文生産品は個別法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法)

(b) 仕掛品

総平均法による原価法

ただし、個別注文生産品は個別法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法)

(c) 原材料

総平均法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法)

(d) 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産・使用権資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。また、在外連結子会社については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 7年～60年

機械及び装置 2年～20年

無形固定資産（リース資産・使用権資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（主として5年）に基づいております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

使用権資産

リース期間に基づく定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給対象期間に対応した支給見込額を計上しております。

役員賞与引当金

役員の賞与支給に備えるため、当連結会計年度における支給見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

一部の連結子会社は、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規による要支給額の全額を計上しております。

株主優待引当金

株主優待の支出に備えるため、当連結会計年度における支出見込額を計上しております。

役員株式給付引当金

役員株式給付規程に基づく当社株式等の給付に備えるため、当連結会計年度における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上しております。

なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異は10年による定額法により翌期から償却しております。

過去勤務費用は10年による定額法により償却しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債は、当該子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

5年間で均等償却しております。ただし、金額が僅少の場合は、発生した期の損益として処理しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

(会計方針の変更)

(IFRS第16号「リース」の適用)

当連結会計年度の期首から、日本基準を採用する当社及び国内子会社、並びに米国基準を適用する米国子会社を除き、IFRS第16号「リース」を適用しております。これにより、借手は原則すべてのリースについて資産及び負債を認識することといたしました。

なお、本基準の適用による当企業グループの財政状態及び経営成績に与える影響は軽微であります。

(未適用の会計基準等)

当社及び国内連結子会社

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、

- ・「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)が、公正価値測定についてほぼ同じ内容の詳細なガイダンス(国際財務報告基準(IFRS)においてはIFRS第13号「公正価値測定」、米国会計基準においてはAccounting Standards CodificationのTopic 820「公正価値測定」)を定めている状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、主に金融商品の時価に関するガイダンス及び開示に関して、日本基準を国際的な会計基準との整合性を図る取組みが行われ、「時価の算定に関する会計基準」等が公表されたものです。

企業会計基準委員会の時価の算定に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、統一的な算定方法を用いることにより、国内外の企業間における財務諸表の比較可能性を向上させる観点から、IFRS第13号の定めを基本的にすべて取り入れることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮し、財務諸表間の比較可能性を大きく損なわせない範囲で、個別項目に対するその他の取扱いを定めることとされております。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「時価の算定に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で未定であります。

- ・「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日 企業会計基準委員会）

(1) 概要

国際会計基準審議会（IASB）が2003年に公表した国際会計基準（IAS）第1号「財務諸表の表示」（以下「IAS第1号」）第125項において開示が求められている「見積りの不確実性の発生要因」について、財務諸表利用者にとって有用性が高い情報として日本基準においても注記情報として開示を求めることを検討するよう要望が寄せられ、企業会計基準委員会において、会計上の見積りの開示に関する会計基準（以下「本会計基準」）が開発され、公表されたものです。

企業会計基準委員会の本会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、個々の注記を拡充するのではなく、原則（開示目的）を示したうえで、具体的な開示内容は企業が開示目的に照らして判断することとされ、開発にあたっては、IAS第1号第125項の定めを参考とすることとしたものです。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末から適用予定であります。

- ・「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 2020年3月31日 企業会計基準委員会）

(1) 概要

「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実について検討することが提言されたことを受け、企業会計基準委員会において、所要の改正を行い、会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準として公表されたものです。

なお、「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実を図るに際しては、関連する会計基準等の定めが明らかでない場合におけるこれまでの実務に影響を及ぼさないために、企業会計原則注解（注1-2）の定めを引き継ぐこととされております。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末から適用予定であります。

(追加情報)

（取締役及び執行役員に対する株式給付信託（BBT）について）

当社は、2018年6月28日開催の第67回定時株主総会決議に基づき、当社の取締役（社外取締役を除きます。）及び執行役員（以下「取締役等」といいます。）に対する業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT）」（以下「本制度」といいます。）を導入しております。

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託（以下、「本信託」といいます。）を通じて取得され、取締役等に対して、当社が定める役員株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭（以下、「当社株式等」といいます。）が本信託を通じて給付される業績連動型株式報酬制度です。なお、当社取締役等が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として当社取締役等の退任時となります。

連結貸借対照表に計上した資産管理サービス信託銀行株式会社が保有する当社株式は、前連結会計年度末275百万円(119千株)、当連結会計年度末271百万円(117千株)であります。

（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大の影響に関する会計上の見積り）

当企業グループは、新型コロナウイルス感染症の影響について、今後の広がり方や収束時期等に関して不確実性が高い事象であると考えております。当連結会計年度の連結財務諸表作成にあたって、会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の設定としては、新型コロナウイルス感染症の影響が2021年3月期の一定期間継続するものとして検討しております。

(連結貸借対照表関係)

1 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、前連結会計年度の末日は金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。前連結会計年度末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
受取手形	250百万円	- 百万円
支払手形	104	-

2 圧縮記帳額

国庫補助金の受入れにより、有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
機械及び装置	98百万円	98百万円

3 有形固定資産の減価償却累計額

有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	45,662百万円	47,558百万円

4 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
長期預金	20百万円	20百万円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
支払手形及び買掛金	185百万円	222百万円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費ならびに当期製造費用の中に含まれる研究開発費は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
	2,698百万円	2,573百万円

2 固定資産処分損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
建物及び構築物	9百万円	30百万円
機械及び装置	25	3
工具、器具及び備品	30	1
解体撤去費用	-	129
その他	26	30

3 減損損失

前連結会計年度において、当企業グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
栃木県足利市	構造機器製造設備	建物及び構築物、機械装置等

当企業グループの減損会計適用に当たっての資産のグルーピングは、継続的に損益の把握を実施している管理単位で行っています。

当企業グループは、構造機器事業セグメントでの事業環境が変化したことに伴い、一部の製品について当初想定していた収益が見込めなくなったことにより、投資額の回収が困難と見込まれたため、減損損失として特別損失に121百万円計上しました。その内訳は、建物及び構築物20百万円、機械及び装置68百万円、建設仮勘定18百万円、その他14百万円であります。

なお、減損損失を計上した資産の回収可能価額は零と見積もっております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	800百万円	846百万円
組替調整額	2	14
税効果調整前	803	860
税効果額	242	232
その他有価証券評価差額金	560	628
為替換算調整勘定：		
当期発生額	823	349
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	130	209
組替調整額	153	51
税効果調整前	22	157
税効果額	7	48
退職給付に係る調整額	15	108
その他の包括利益合計	1,367	1,086

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自2018年4月1日 至2019年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	34,300	-	-	34,300
合計	34,300	-	-	34,300
自己株式				
普通株式(注)1、2、3	3,059	121	188	2,992
合計	3,059	121	188	2,992

- (注) 1. 普通株式の自己株式の増加121千株は、「株式給付信託(BBT)」の取得による増加119千株、単元未満株式の買取りによる増加2千株によるものであります。
2. 普通株式の自己株式の減少188千株は、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」に係る資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)保有の当社株式の売却による減少58千株、「株式給付信託(BBT)」に係る資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)への第三者割当による減少119千株、オイレス西日本販売株式会社を完全子会社とする株式交換による減少11千株であります。
3. 普通株式の自己株式の当連結会計年度末株式数には、「株式給付信託(BBT)」に係る資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)保有の当社株式119千株が含まれております。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2018年6月28日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額・・・782百万円

(ロ) 1株当たり配当額・・・25円

(ハ) 基準日・・・2018年3月31日

(ニ) 効力発生日・・・2018年6月29日

(注) 配当金の総額には「株式給付信託(従業員持株会処分型)」信託E口に対する配当金1百万円を含めております。

2018年11月2日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額・・・785百万円

(ロ) 1株当たり配当額・・・25円

(ハ) 基準日・・・2018年9月30日

(ニ) 効力発生日・・・2018年12月4日

(注) 配当金の総額には「株式給付信託(BBT)」信託E口に対する配当金2百万円を含めております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2019年6月27日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額・・・785百万円

(ロ) 配当の原資・・・利益剰余金

(ハ) 1株当たり配当額・・・25円

(ニ) 基準日・・・2019年3月31日

(ホ) 効力発生日・・・2019年6月28日

(注) 配当金の総額には「株式給付信託(BBT)」信託E口に対する配当金2百万円を含めております。

当連結会計年度（自2019年4月1日 至2020年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数（千株）	当連結会計年度 増加株式数（千株）	当連結会計年度 減少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	34,300	-	-	34,300
合計	34,300	-	-	34,300
自己株式				
普通株式（注）1、2、3	2,992	1	1	2,992
合計	2,992	1	1	2,992

- （注）1. 普通株式の自己株式の増加1千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。
 2. 普通株式の自己株式の減少1千株は、「株式給付信託(BBT)」の給付による減少であります。
 3. 普通株式の自己株式の当連結会計年度末株式数には、「株式給付信託(BBT)」に係る資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)保有の当社株式117千株が含まれております。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

2019年6月27日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

- (イ) 配当金の総額・・・785百万円
- (ロ) 1株当たり配当額・・・25円
- (ハ) 基準日・・・・・・・・2019年3月31日
- (ニ) 効力発生日・・・・・・・・2019年6月28日

（注）配当金の総額には「株式給付信託(BBT)」信託E口に対する配当金2百万円を含めております。

2019年11月5日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

- (イ) 配当金の総額・・・785百万円
- (ロ) 1株当たり配当額・・・25円
- (ハ) 基準日・・・・・・・・2019年9月30日
- (ニ) 効力発生日・・・・・・・・2019年12月3日

（注）配当金の総額には「株式給付信託(BBT)」信託E口に対する配当金2百万円を含めております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2020年6月29日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

- (イ) 配当金の総額・・・785百万円
- (ロ) 配当の原資・・・・・・・・利益剰余金
- (ハ) 1株当たり配当額・・・25円
- (ニ) 基準日・・・・・・・・2020年3月31日
- (ホ) 効力発生日・・・・・・・・2020年6月30日

（注）配当金の総額には「株式給付信託(BBT)」信託E口に対する配当金2百万円を含めております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金勘定	18,226百万円	21,679百万円
有価証券	1,499	999
預入期間が3か月を超える定期預金	866	846
現金及び現金同等物	18,860	21,832

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(a) 有形固定資産

主に構築物であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「3. 会計方針に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年内	16	16
1年超	38	20
合計	55	37

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

当企業グループは、資金運用については、安全性の高い金融資産で運用し、運転資金については自己資金で賄うことを原則としております。

営業債権である受取手形及び売掛金に関わる顧客の信用リスクは、与信管理運営に関する内部ルールに沿って低減を図っております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的の時価や発行体の財政状況の確認を行っております。

長期借入金については、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、固定金利のため金利の変動リスクはありません。

デリバティブ取引は、為替相場の変動リスクを回避することを目的として実需の範囲で利用しており、投機的な取引は行わない方針としております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注)2.参照)。

前連結会計年度（2019年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1)現金及び預金	18,226	18,226	-
(2)受取手形及び売掛金 貸倒引当金(*1)	19,217 56		
	19,160	19,160	-
(3)有価証券及び投資有価証券	6,967	6,967	0
資産計	44,354	44,354	0
(1)支払手形及び買掛金	6,654	6,654	-
(2)長期借入金	6,000	6,000	-
負債計	12,654	12,654	-
デリバティブ取引(*2)	94	94	-

(*1)貸倒引当金を控除しております。

(*2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

当連結会計年度（2020年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1)現金及び預金	21,679	21,679	-
(2)受取手形及び売掛金 貸倒引当金(*1)	18,207 45		
	18,161	18,161	-
(3)有価証券及び投資有価証券	5,611	5,611	0
資産計	45,452	45,452	0
(1)支払手形及び買掛金	5,839	5,839	-
(2)長期借入金	6,000	6,000	-
負債計	11,839	11,839	-
デリバティブ取引(*2)	15	15	-

(*1)貸倒引当金を控除しております。

(*2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3)有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。なお、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(1)支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2)長期借入金

元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。なお、1年内返済予定の長期借入金を含めて表示しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
非上場株式	484	483

この有価証券については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	18,203	-	-	-
受取手形及び売掛金	19,217	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1)社債	-	-	-	-
(2)その他	1,499	-	-	-
合計	38,921	-	-	-

当連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	21,660	-	-	-
受取手形及び売掛金	18,207	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1)社債	-	-	-	-
(2)その他	999	-	-	-
合計	40,868	-	-	-

4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
長期借入金	-	3,815	2,185	-

当連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
長期借入金	545	4,360	1,095	-

(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券
 該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券
 前連結会計年度(2019年3月31日)

種類		連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	(1)国債・地方債等	-	-	-
	(2)社債	-	-	-
	(3)その他	1,499	1,499	0
	小計	1,499	1,499	0
合計		1,499	1,499	0

当連結会計年度(2020年3月31日)

種類		連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	(1)国債・地方債等	-	-	-
	(2)社債	-	-	-
	(3)その他	999	999	0
	小計	999	999	0
合計		999	999	0

3. その他有価証券

前連結会計年度(2019年3月31日)

種類		連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1)株式	4,442	1,977	2,464
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	4,442	1,977	2,464
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えない もの	(1)株式	1,025	1,206	181
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	1,025	1,206	181
合計		5,467	3,184	2,282

当連結会計年度(2020年3月31日)

種類		連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1)株式	3,621	1,759	1,862
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	3,621	1,759	1,862
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えない もの	(1)株式	989	1,430	440
	(2)債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	989	1,430	440
合計		4,611	3,189	1,422

4. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	6	2	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	6	2	-

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	18	14	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	18	14	-

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(2019年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の 取引	通貨スワップ取引				
	受取日本円・支払ユーロ	1,517	347	71	71
	受取日本円・支払ドル	900	449	22	22
合計		2,418	797	94	94

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(2020年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の 取引	通貨スワップ取引				
	受取日本円・支払ユーロ	1,314	188	30	30
	受取日本円・支払ドル	405	405	14	14
合計		1,720	593	15	15

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

確定給付企業年金制度(すべて積立型制度であります。)では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給します。

一部の確定給付企業年金制度には、退職給付信託が設定されております。

退職一時金制度(非積立型制度であります。)では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給します。

なお、当社及び一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付債務の期首残高	10,098百万円	10,278百万円
勤務費用	659	613
利息費用	67	68
数理計算上の差異の発生額	37	79
退職給付の支払額	581	483
その他	3	1
退職給付債務の期末残高	10,278	10,396

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
年金資産の期首残高	9,618百万円	9,734百万円
期待運用収益	210	212
数理計算上の差異の発生額	93	288
事業主からの拠出額	486	488
退職給付の支払額	488	403
年金資産の期末残高	9,734	9,743

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	9,774百万円	9,866百万円
年金資産	9,734	9,743
	39	123
非積立型制度の退職給付債務	504	529
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	544	652
退職給付に係る負債	669	778
退職給付に係る資産	125	126
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	544	652

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
勤務費用	659百万円	613百万円
利息費用	67	68
期待運用収益	210	212
数理計算上の差異の費用処理額	198	85
過去勤務費用の費用処理額	45	33
確定給付制度に係る退職給付費用	670	520

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
過去勤務費用	45百万円	33百万円
数理計算上の差異	68	123
合計	22	157

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
未認識過去勤務費用	33百万円	-百万円
未認識数理計算上の差異	419	543
合計	385	543

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
国内債券	31 %	31 %
国内株式	3	2
外国債券	6	5
外国株式	3	2
保険資産(一般勘定)	56	57
現金及び預金	0	2
その他	1	1
計	100	100

(注) 年金資産合計には、企業年金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度14%、当連結会計年度14%含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
割引率	0.7 %	0.7 %
長期期待運用収益率	1.0~2.5	1.0~2.5
予想昇給率	1.4~5.1	1.4~5.3

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）112百万円、当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）113百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金繰入超過額	6百万円	12百万円
賞与引当金	302	318
役員退職慰労引当金	17	19
たな卸資産未実現損益	252	232
投資有価証券評価損	133	133
退職給付に係る負債	491	493
退職給付に係る調整累計額	119	168
会員権評価損	13	12
減損損失	689	627
その他	645	746
繰延税金資産小計	2,672	2,765
評価性引当額	615	618
繰延税金資産合計	2,057	2,147
繰延税金負債		
海外子会社の留保利益	1,112	1,160
退職給付に係る資産	68	91
その他有価証券評価差額金	636	404
その他	241	233
繰延税金負債合計	2,058	1,889
繰延税金資産(負債)の純額	1	257

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
法定実効税率 (調整)	31.0%	31.0%
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.9	2.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.0	0.0
住民税均等割額	0.8	0.8
海外子会社の税率差異等による影響額	2.7	1.9
海外子会社の留保利益	1.2	1.0
法人税の特別控除額	5.4	3.9
評価性引当額の増減	0.9	0.1
繰越外国税額控除	0.7	-
ESOP信託分配金税務上損金算入	1.9	-
その他	1.6	1.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	23.4	27.9

(企業結合等関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
重要性が乏しいため記載しておりません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
資産除去債務の重要性が乏しいため記載しておりません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
資産除去債務の重要性が乏しいため記載しておりません。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため記載しておりません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため記載しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当企業グループの報告セグメントは、当企業グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当企業グループは、製品別の事業部等により、取り扱う製品について国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当企業グループは、事業部等を基礎とした製品別のセグメントから構成されており、「軸受機器事業」、「構造機器事業」及び「建築機器事業」の3つを報告セグメントとしております。

「軸受機器事業」は、オイルレスベアリング等を製造販売しております。「構造機器事業」は、支承、免震・制震装置等を製造販売しております。「建築機器事業」は、ウィンドウ オペレーター、環境機器、住宅用機器等を製造販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のために採用している会計処理の方法と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自2018年4月1日 至2019年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務 諸表計上額 (注)3
	軸受機器	構造機器	建築機器	計				
売上高								
外部顧客への売上高	45,060	9,054	5,778	59,893	1,467	61,360	-	61,360
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	-	39	43	37	81	81	-
計	45,064	9,054	5,818	59,936	1,504	61,441	81	61,360
セグメント利益又は損 失()	3,844	1,108	52	5,005	27	5,032	4	5,028
セグメント資産	46,255	11,324	4,445	62,025	494	62,520	16,795	79,315
その他の項目(注)4								
減価償却費	2,537	71	100	2,709	0	2,709	-	2,709
減損損失	-	121	-	121	-	121	-	121
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	5,083	154	77	5,316	0	5,316	-	5,316

当連結会計年度（自2019年4月1日 至2020年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務 諸表計上額 (注) 3
	軸受機器	構造機器	建築機器	計				
売上高								
外部顧客への売上高	41,538	11,352	5,899	58,790	1,374	60,165	-	60,165
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	-	3	7	34	42	42	-
計	41,542	11,352	5,903	58,798	1,409	60,208	42	60,165
セグメント利益又は損 失()	2,665	1,859	196	4,721	21	4,742	6	4,749
セグメント資産	45,049	11,336	4,735	61,121	587	61,709	18,178	79,887
その他の項目(注) 4								
減価償却費	2,715	83	58	2,856	0	2,857	-	2,857
減損損失	-	-	-	-	-	-	-	-
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	3,176	241	22	3,439	2	3,442	-	3,442

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、伝導機器事業等であります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失()の調整額は、セグメント間取引消去額であります。

(2) セグメント資産

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
債権の相殺消去等	1,426	1,720
全社資産	18,221	19,898
合計	16,795	18,178

全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない余資運用資金（現金及び預金、有価証券）、長期投資資金（金融機関の株式）及び繰延税金資産等であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用の償却額ならびに増加額が含まれております。

【関連情報】

前連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	欧州	アジア	その他	合計
39,591	4,590	2,973	12,738	1,466	61,360

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. アジアのうち、中国は7,281百万円であります。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	北米	欧州	アジア	その他	合計
13,392	1,736	841	4,207	21	20,199

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客はありません。

当連結会計年度（自2019年4月1日 至2020年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	欧州	アジア	その他	合計
39,991	4,179	2,909	11,622	1,462	60,165

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. アジアのうち、中国は6,424百万円であります。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	北米	欧州	アジア	その他	合計
14,005	1,670	959	4,168	16	20,819

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 （自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）	当連結会計年度 （自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）
1株当たり純資産額	1,878.17円	1,901.14円
1株当たり当期純利益金額	119.49円	109.62円

（注）1．潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2．1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）	当連結会計年度 （自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）
親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	3,738	3,432
普通株主に帰属しない金額（百万円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	3,738	3,432
期中平均株式数（千株）	31,286	31,307

（注）「期中平均株式数」は、連結財務諸表において自己株式として処理している資産管理サービス信託銀行（信託E口）が保有する当社株式を控除して算出してあります。期末株式数は、前連結会計年度119千株、当連結会計年度117千株、期中平均株式数は前連結会計年度86千株、当連結会計年度117千株であります。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	-	545	0.22	-
1年以内に返済予定のリース債務	55	86	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	6,000	5,455	0.22	2021年5月～ 2025年11月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	55	151	-	2021年4月～ 2032年3月
その他有利子負債(営業保証金)	493	491	0.01	-
合計	6,603	6,730	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額又は利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分した金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金、リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
長期借入金	1,090	1,090	1,090	1,090
リース債務	60	40	31	10

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	15,214	29,590	44,908	60,165
税金等調整前四半期(当期) 純利益(百万円)	1,347	2,427	4,101	4,890
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益(百万円)	827	1,662	2,873	3,432
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	26.43	53.10	91.78	109.62

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	26.43	26.67	38.68	17.84

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,345	14,046
受取手形	1,492	1,327
電子記録債権	2,449	2,475
売掛金	9,118	8,961
有価証券	1,499	999
商品及び製品	1,733	1,655
仕掛品	2,278	2,550
原材料及び貯蔵品	775	631
短期貸付金	1,754	1,256
未収入金	629	549
その他	541	198
流動資産合計	33,618	34,651
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,141	5,625
構築物	297	287
機械及び装置	4,245	4,237
車両運搬具	13	7
工具、器具及び備品	394	442
土地	1,865	1,865
リース資産	28	29
建設仮勘定	415	616
有形固定資産合計	10,610	11,253
無形固定資産		
施設利用権	14	14
ソフトウェア	206	219
リース資産	1	-
ソフトウェア仮勘定	152	0
無形固定資産合計	374	233
投資その他の資産		
投資有価証券	5,544	4,726
関係会社株式	6,408	6,408
関係会社長期貸付金	835	644
保険積立金	1,163	896
差入保証金	367	382
前払年金費用	220	294
繰延税金資産	659	835
その他	100	90
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	15,298	14,277
固定資産合計	26,284	25,764
資産合計	59,902	60,415

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,434	2,364
短期借入金	2,219	2,344
1年内返済予定の長期借入金	-	545
リース債務	8	5
未払金	2,823	2,303
未払費用	2,130	2,130
未払法人税等	1	658
未払消費税等	-	417
預り金	137	55
賞与引当金	728	769
役員賞与引当金	90	78
株主優待引当金	80	130
その他	111	44
流動負債合計	10,553	11,302
固定負債		
長期借入金	6,000	5,455
リース債務	21	24
退職給付引当金	159	169
役員株式給付引当金	40	76
資産除去債務	38	38
その他	228	220
固定負債合計	6,489	5,986
負債合計	17,043	17,288
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,585	8,585
資本剰余金		
資本準備金	9,474	9,474
その他資本剰余金	117	117
資本剰余金合計	9,591	9,591
利益剰余金		
利益準備金	570	570
その他利益剰余金		
研究開発積立金	1,650	1,650
別途積立金	16,450	16,450
繰越利益剰余金	9,864	10,729
利益剰余金合計	28,535	29,399
自己株式	5,412	5,411
株主資本合計	41,299	42,165
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,560	962
評価・換算差額等合計	1,560	962
純資産合計	42,859	43,127
負債純資産合計	59,902	60,415

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	1 37,575	1 37,565
売上原価	1 25,848	1 26,040
売上総利益	11,726	11,525
販売費及び一般管理費	1, 2 9,771	1, 2 9,414
営業利益	1,954	2,110
営業外収益		
受取利息	1 39	1 28
受取配当金	1 624	1 575
受取ロイヤリティー	1 454	1 545
デリバティブ評価益	8	-
為替差益	-	10
その他	1 150	1 238
営業外収益合計	1,278	1,398
営業外費用		
支払利息	1 7	1 16
売上割引	7	8
支払手数料	65	0
デリバティブ評価損	-	78
為替差損	53	-
その他	3	13
営業外費用合計	137	117
経常利益	3,095	3,391
特別利益		
投資有価証券売却益	2	14
特別利益合計	2	14
特別損失		
固定資産処分損	56	190
減損損失	121	-
特別損失合計	178	190
税引前当期純利益	2,919	3,214
法人税、住民税及び事業税	377	739
法人税等調整額	80	40
法人税等合計	457	779
当期純利益	2,461	2,435

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本										自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金							
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計			
						研究開発積立金	別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	8,585	9,474	53	9,527	570	1,650	16,450	8,970	27,641	5,449	40,304	
当期変動額												
剰余金の配当								1,567	1,567		1,567	
当期純利益								2,461	2,461		2,461	
自己株式の取得										281	281	
自己株式の処分			64	64						317	381	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）												
当期変動額合計	-	-	64	64	-	-	-	893	893	36	994	
当期末残高	8,585	9,474	117	9,591	570	1,650	16,450	9,864	28,535	5,412	41,299	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	2,072	2,072	42,377
当期変動額			
剰余金の配当			1,567
当期純利益			2,461
自己株式の取得			281
自己株式の処分			381
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	512	512	512
当期変動額合計	512	512	481
当期末残高	1,560	1,560	42,859

当事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本										自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金							
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計			
						研究開発積立金	別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	8,585	9,474	117	9,591	570	1,650	16,450	9,864	28,535	5,412	41,299	
当期変動額												
剰余金の配当								1,571	1,571		1,571	
当期純利益								2,435	2,435		2,435	
自己株式の取得										2	2	
自己株式の処分										4	4	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）											-	
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	864	864	1	866	
当期末残高	8,585	9,474	117	9,591	570	1,650	16,450	10,729	29,399	5,411	42,165	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,560	1,560	42,859
当期変動額			
剰余金の配当			1,571
当期純利益			2,435
自己株式の取得			2
自己株式の処分			4
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	597	597	597
当期変動額合計	597	597	268
当期末残高	962	962	43,127

【注記事項】

(重要な会計方針)

1．有価証券の評価基準及び評価方法

- (1) 満期保有目的の債券
償却原価法(定額法)
- (2) 関係会社株式
移動平均法による原価法
- (3) その他有価証券
時価のあるもの
市場価格等に基づく時価法
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
時価のないもの
移動平均法による原価法

2．デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

3．たな卸資産の評価基準及び評価方法

- (1) 商品及び製品
総平均法による原価法 ただし、個別注文生産品は個別法による原価法
(貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法)
- (2) 仕掛品
総平均法による原価法 ただし、個別注文生産品は個別法による原価法
(貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法)
- (3) 原材料
総平均法による原価法
(貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法)
- (4) 貯蔵品
最終仕入原価法
(貸借対照表価額については収益性の低下による簿価切下げの方法)

4．固定資産の減価償却の方法

- (1) 有形固定資産(リース資産を除く)
定率法
ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。
- (2) 無形固定資産(リース資産を除く)
定額法
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(主として5年)に基づいております。
- (3) リース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

5．引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金
債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 賞与引当金
従業員の賞与支給に備えるため、支給対象期間に対応した支給見込額を計上しております。
- (3) 役員賞与引当金
役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員(パートタイマー及び嘱託を含む)の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は10年による定額法により、翌事業年度から償却しております。

過去勤務費用は10年による定額法により償却しております。

(5) 株主優待引当金

株主優待の支出に備えるため、当事業年度における支出見込額を計上しております。

(6) 役員株式給付引当金

役員株式給付規程に基づく当社株式等の給付に備えるため、当事業年度における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

固定負債の「長期預り保証金」及び「長期未払金」は従来、貸借対照表上独立掲記しておりましたが、重要性が低下したため、当事業年度から「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、固定負債に表示していた「長期預り保証金」210百万円、「長期未払金」16百万円は、「その他」として組み替えております。

(追加情報)

(取締役及び執行役員に対する株式給付信託(BBT)について)

取締役(社外取締役を除く)及び執行役員に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する注記については、連結財務諸表「注記事項(追加情報)」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略していません。

(新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当社は、新型コロナウイルス感染症の影響について、今後の広がり方や収束時期等に関して不確実性が高い事象であると考えております。当事業年度の財務諸表作成にあたって、会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の設定としては、新型コロナウイルス感染症の影響が2021年3月期の一定期間継続するものとして検討しております。

(貸借対照表関係)

1 事業年度末日満期手形

事業年度末日満期手形の会計処理については、前事業年度の末日は金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。前事業年度末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
受取手形	120百万円	- 百万円

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
短期金銭債権	4,494百万円	3,947百万円
短期金銭債務	3,473	3,921

3 偶発債務

次の関係会社の仕入債務について保証を行っております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
(株)リコーキハラ	6百万円	(株)リコーキハラ 5百万円

4 圧縮記帳額

国庫補助金の受入れにより、有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
機械及び装置	98百万円	98百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	8,802百万円	8,199百万円
仕入高	5,784	5,324
その他の営業取引	146	216
営業取引以外の取引	1,041	1,083

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度60%、当事業年度61%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度40%、当事業年度39%であります。

販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
広告宣伝費	67百万円	37百万円
荷造運搬費	967	883
報酬及び給料手当	3,415	3,361
賞与引当金繰入額	379	402
役員賞与引当金繰入額	90	78
役員株式給付引当金繰入額	40	42
退職給付費用	312	260
福利厚生費	961	844
旅費及び交通費	304	228
通信費	163	168
消耗品費	257	323
交際費	46	44
賃借料	455	458
減価償却費	506	462
支払手数料	380	384
株主優待引当金繰入額	98	125

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式6,408百万円、当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式6,408百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	225百万円	238百万円
貸倒引当金繰入超過額	0	0
退職給付引当金	49	52
退職給付信託	395	398
投資有価証券評価損	133	133
関係会社株式評価損	117	117
未払事業税	33	53
会員権評価損	12	12
減損損失	689	626
その他	269	278
繰延税金資産小計	1,927	1,912
評価性引当額	605	607
繰延税金資産合計	1,322	1,304
繰延税金負債		
前払年金費用	68	91
その他有価証券評価差額金	594	378
繰延税金負債合計	662	469
繰延税金資産(負債)の純額	659	835

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率 (調整)	31.0%	31.0%
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.0	2.7
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	5.4	4.4
住民税均等割額	1.1	1.0
法人税の特別控除額	9.0	5.7
評価性引当額の増減	1.5	0.1
繰越外国税額控除	1.2	-
ESOP信託分配金税務上損金算入	3.3	-
その他	2.1	0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	15.7	24.2

(企業結合等関係)

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

重要性が乏しいため記載しておりません。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	有形固定資産						
	建物	5,141	822	4	333	5,625	9,006
	構築物	297	24	1	32	287	1,064
	機械及び装置	2,453	648	1	722	2,378	14,457
	車両運搬具	13	-	-	5	7	82
	工具、器具及び備品	394	352	1	301	442	8,947
	土地	1,865	-	-	-	1,865	-
	リース資産	28	10	-	8	29	41
	建設仮勘定	415	2,091	1,891	-	616	-
	有形固定資産計	10,610	3,949	1,901	1,404	11,253	33,599
無形固定資産	無形固定資産						
	施設利用権	14	-	-	0	14	-
	ソフトウェア	206	165	-	152	219	-
	リース資産	1	-	-	1	-	-
	ソフトウェア仮勘定	152	10	163	-	0	-
	無形固定資産計	374	175	163	153	233	-

(注) 1. 当期増加額の主なものは次のとおりであります。

建物	藤沢事業場	藤沢事業場新駐車場	536百万円
建物	藤沢工場	5、6号棟建屋改修工事	120
工具、器具及び備品	藤沢工場他	生産用金型	128

2. 当期減少額のうち、建設仮勘定の減少及びソフトウェア仮勘定の減少は主に本勘定への振替によるものであり、その他は主に売却又は廃棄によるものです。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	1	-	-	1
賞与引当金	728	769	728	769
役員賞与引当金	90	78	90	78
役員株式給付引当金	40	42	6	76
株主優待引当金	80	130	80	130

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで																														
定時株主総会	6月中																														
基準日	3月31日																														
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日																														
1単元の株式数	100株																														
単元未満株式の買取り																															
取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部																														
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社																														
取次所																															
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額																														
公告掲載方法	電子公告とし、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載 (電子公告のアドレス https://www.oiles.co.jp/ir/koukoku/)																														
株主に対する特典	<p>毎年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された、当社株式1単元(100株)以上を保有する株主に対し、所有株式数と保有期間に応じてポイントを6月上旬に付与いたします。株主優待のお申込みにあたっては、当社株主限定の特設インターネット・サイトにてご登録ならびにお申込みしていただく必要があります。ポイントは株主限定の特設インターネット・サイトにおいて、食品、電化製品、ギフト等に交換できます。</p> <p>(初年度)</p> <table border="0"> <tr> <td>100株以上300株未満の株主</td> <td>3,000ポイント</td> </tr> <tr> <td>300株以上500株未満の株主</td> <td>5,000ポイント</td> </tr> <tr> <td>500株以上800株未満の株主</td> <td>10,000ポイント</td> </tr> <tr> <td>800株以上1,000株未満の株主</td> <td>15,000ポイント</td> </tr> <tr> <td>1,000株以上の株主</td> <td>20,000ポイント</td> </tr> </table> <p>(1年以上3年未満保有)</p> <table border="0"> <tr> <td>100株以上300株未満の株主</td> <td>4,000ポイント</td> </tr> <tr> <td>300株以上500株未満の株主</td> <td>6,000ポイント</td> </tr> <tr> <td>500株以上800株未満の株主</td> <td>11,000ポイント</td> </tr> <tr> <td>800株以上1,000株未満の株主</td> <td>16,000ポイント</td> </tr> <tr> <td>1,000株以上の株主</td> <td>21,000ポイント</td> </tr> </table> <p>(3年以上保有)</p> <table border="0"> <tr> <td>100株以上300株未満の株主</td> <td>5,000ポイント</td> </tr> <tr> <td>300株以上500株未満の株主</td> <td>7,000ポイント</td> </tr> <tr> <td>500株以上800株未満の株主</td> <td>12,000ポイント</td> </tr> <tr> <td>800株以上1,000株未満の株主</td> <td>17,000ポイント</td> </tr> <tr> <td>1,000株以上の株主</td> <td>22,000ポイント</td> </tr> </table> <p>保有年数のカウントは、制度開始時期(2017年3月31日現在の株主名簿)以降からとし、毎年3月31日現在の株主名簿に同一株主番号にて連続で必要年数記載されることが条件となります。なお、ポイントは次年度に繰り越すことはできません。対象となる株主には、5月下旬～6月上旬に株主限定の特設インターネット・サイトへの登録方法や保有ポイントなどを記載した案内ハガキをお送りします。</p>	100株以上300株未満の株主	3,000ポイント	300株以上500株未満の株主	5,000ポイント	500株以上800株未満の株主	10,000ポイント	800株以上1,000株未満の株主	15,000ポイント	1,000株以上の株主	20,000ポイント	100株以上300株未満の株主	4,000ポイント	300株以上500株未満の株主	6,000ポイント	500株以上800株未満の株主	11,000ポイント	800株以上1,000株未満の株主	16,000ポイント	1,000株以上の株主	21,000ポイント	100株以上300株未満の株主	5,000ポイント	300株以上500株未満の株主	7,000ポイント	500株以上800株未満の株主	12,000ポイント	800株以上1,000株未満の株主	17,000ポイント	1,000株以上の株主	22,000ポイント
100株以上300株未満の株主	3,000ポイント																														
300株以上500株未満の株主	5,000ポイント																														
500株以上800株未満の株主	10,000ポイント																														
800株以上1,000株未満の株主	15,000ポイント																														
1,000株以上の株主	20,000ポイント																														
100株以上300株未満の株主	4,000ポイント																														
300株以上500株未満の株主	6,000ポイント																														
500株以上800株未満の株主	11,000ポイント																														
800株以上1,000株未満の株主	16,000ポイント																														
1,000株以上の株主	21,000ポイント																														
100株以上300株未満の株主	5,000ポイント																														
300株以上500株未満の株主	7,000ポイント																														
500株以上800株未満の株主	12,000ポイント																														
800株以上1,000株未満の株主	17,000ポイント																														
1,000株以上の株主	22,000ポイント																														

(注) 当社定款の定めにより、当社の株主は、その有する単元未満株式について、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を行使することはできません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第68期)(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) 2019年6月28日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2019年6月28日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

(第69期第1四半期)(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日) 2019年8月8日関東財務局長に提出

(第69期第2四半期)(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日) 2019年11月14日関東財務局長に提出

(第69期第3四半期)(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日) 2020年2月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2019年7月1日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年6月30日

オイレス工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	芝田 雅也	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	加藤 博久	印

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているオイレス工業株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、オイレス工業株式会社及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、オイレス工業株式会社の2020年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、オイレス工業株式会社が2020年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2020年6月30日

オイレス工業株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 芝田 雅也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加藤 博久 印

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているオイレス工業株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第69期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、オイレス工業株式会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。